

GA-8I915P Dual Graphic

Intel® Pentium® 4 LGA775 プロセッサマザーボード

ユーザーズマニュアル

改版 1002
12MJ- 8I915PDG-1002

Declaration of Conformity

We, Manufacturer/Importer
G.B.T. Technology Trading GmbH
Aussehlager Weg 41, 1F 20537 Hamburg, Germany
declare that the product
(description of the apparatus, system, installation to which it refers)
GA-81915P Dual Graphic
Motherboard
is in conformity with conformity is declared)
(reference to the applicable standard and standard is declared)
in accordance with 89/338 EEC EMC Directive

☐ EN 55011	Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of industrial, scientific and medical (ISM) high frequency equipment.	☒ EN 61000-3-2	Disturbances in supply systems caused by harmonics in supply systems caused by household appliances and similar electrical equipment. "Voltage fluctuations"
☐ EN 55013	Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of household appliances and associated equipment.	☒ EN 55024	Information Technology equipment immunity evaluation. Limits and methods of measurement.
☐ EN 55014-1	Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of household electrical appliances, portable tools and similar electrical apparatus.	☐ EN 60082-1	Generic immunity standard Part 1: Residential, commercial and light industry
		☐ EN 50082-2	Generic immunity standard Part 2: Industrial environment.
☐ EN 55016	Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of fluorescent lamps and luminaires.	☐ EN 55014-2	Immunity requirements for household appliances tools and similar apparatus.
☐ EN 55020	Immunity from radio interference of household machines and associated equipment.	☐ EN 60091-2	EMC requirements for uninterruptible power systems (UPS).
☒ EN 55022	Limits and methods of measurement of radio disturbance characteristics of information technology equipment.		
☐ DIN VDE 0885 part 10	Cabled distribution systems. Equipment for signal and data transmission from sound and television signals.		
☐ part 12			



(EC conformity marking)
The manufacturer also declares the conformity of these registered products with the actual required safety standards in accordance with LVD 7323 EEC

☐ EN 60065	Safety requirements for mains operated household electrical appliances, for household and similar general use.	☐ EN 60950	Safety for information technology equipment including electrical business equipment.
☐ EN 60335	Safety of household and similar electrical appliances.	☐ EN 60091-1	General and Safety requirements for uninterruptible power systems (UPS).

Manufacturer/Importer

(Stamp)

Date: Jan. 13, 2005

Name : Timothy Huang

DECLARATION OF CONFORMITY

Per FCC Part 2 Section 2.1077(a)



Responsible Party Name: G.B.T., INC. (U.S.A.)

Address: 17358 Railroad Street

City of Industry, CA 91748

Phone/Fax No: (818) 854-9338/ (818) 854-9339

hereby declares that the product

Product Name: Motherboard

Model Number: GA-81915P Dual Graphic

Conforms to the following specifications:

FCC Part 15, Subpart B, Section 15.107(a) and Section 15.109

(a), Class B Digital Device

Supplementary Information:

This device complies with part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) This device may not cause harmful and (2) this device must accept any interference received, including that may cause undesired operation.

Representative Person's Name: ERIC LU

Signature: Eric Lu

Date: Jan. 13, 2005

著作権

© 2004 GIGA-BYTE TECHNOLOGY CO., LTD. 版權所有。
本書に記載された商標は各社の登録商標です。

注

本製品に付随する記載事項は Gigabyte の所有物です。
当社の書面による許可なく、複製、翻訳または転送することは強く禁じられています。仕様および機能特徴は、予告なしに変更する場合があります。

製品マニュアル分類

本製品を簡単にご使用いただけるように、Gigabyte は以下のようにユーザマニュアルを分類しています：

- クイックインストールに関しては、製品付属の“ハードウェアインストールガイド”を参照してください。
- 製品情報および仕様に関する詳細は、“製品ユーザマニュアル”を参照してください。
- Gigabyte 製品の独自機能に関する詳細は、Gigabyte のウェブサイト内“テクノロジーガイド”セクションにアクセスして、必要な情報をダウンロードまたはご覧ください。

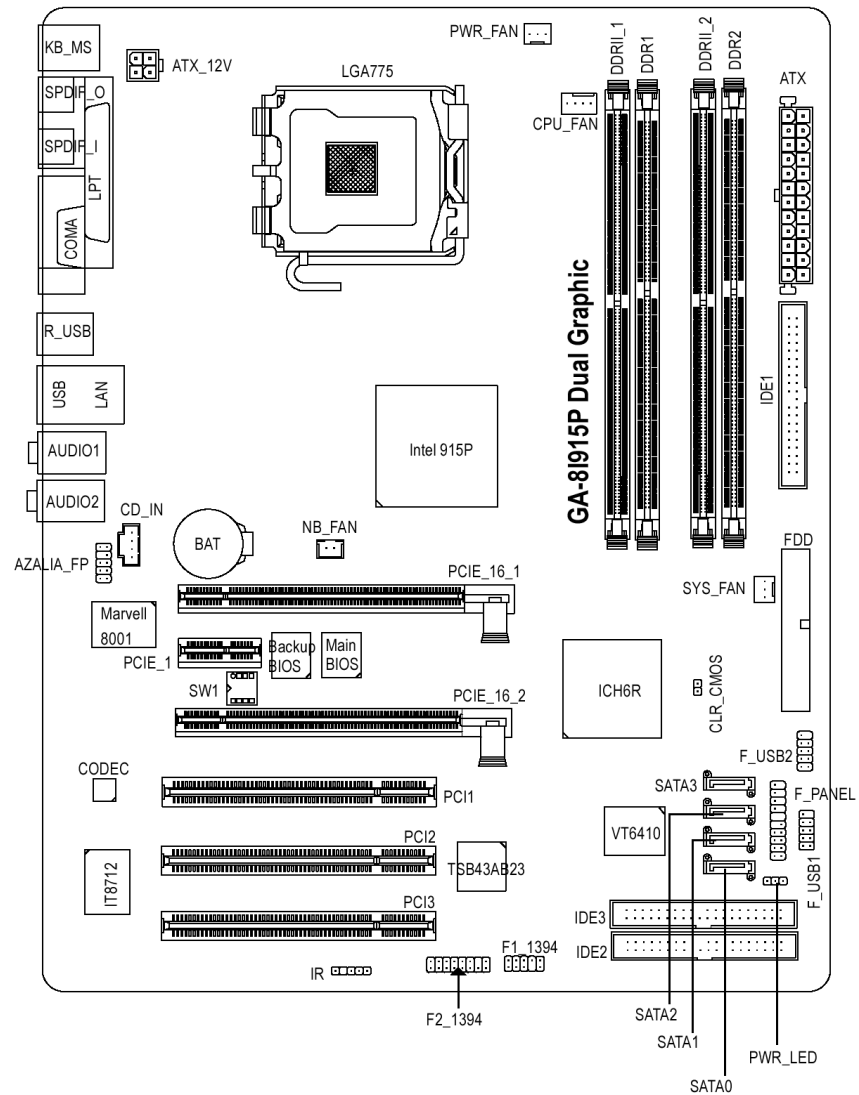
製品の詳細に関しては、Gigabyte のウェブサイト www.gigabyte.com.tw にアクセスしてください。

目次

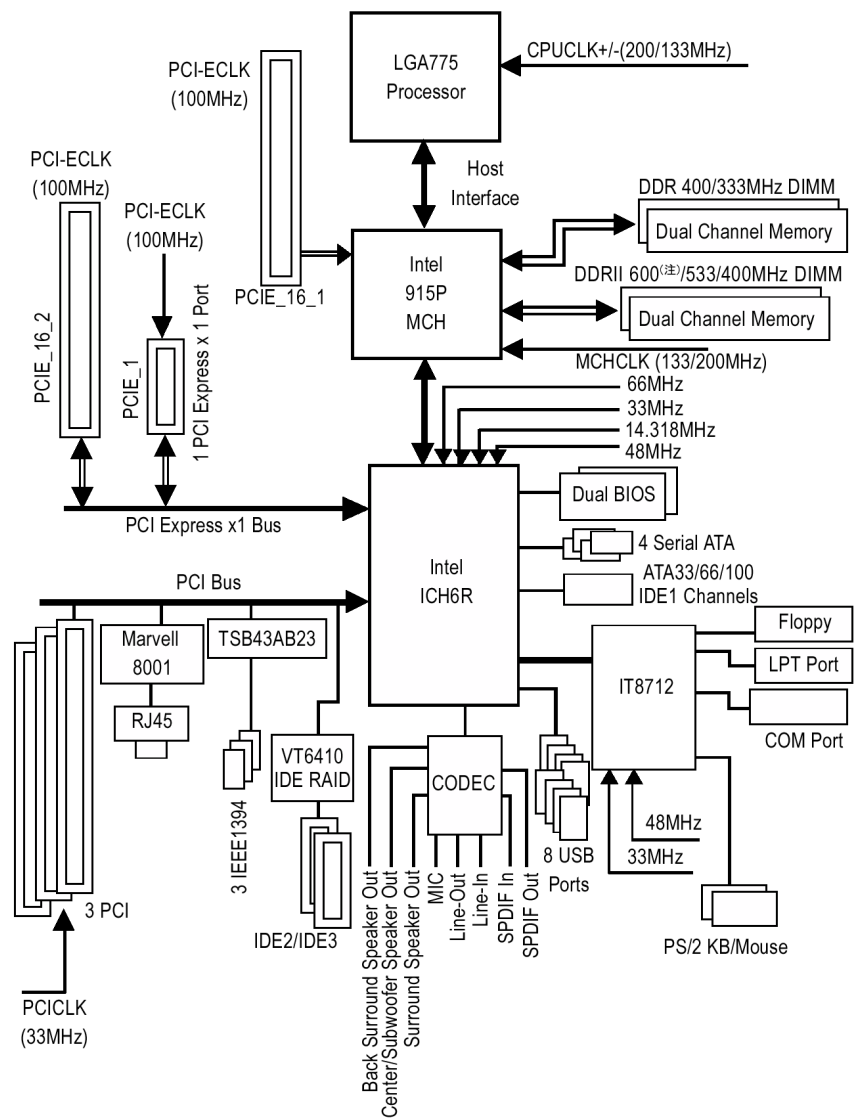
GA-8I915P Dual Graphic マザーボード配置図	6
ブロック図	7
第 1 章ハードウェアのインストール	9
1-1 取り付け前に	9
1-2 特長の概略	10
1-3 CPU とヒートシンクの取り付け	12
1-3-1 CPU の取り付け	12
1-3-2 ヒートシンクの取り付け	13
1-4 メモリの取り付け	14
1-5 拡張カードのインストール	16
1-6 Quad View システムの設定	17
1-7 I/O 後部パネルの紹介	19
1-8 コネクタはじめに	20
第 2 章 BIOS のセットアップ	31
メインメニュー(例 : BIOS Ver.: F1)	32
2-1 Standard CMOS Features	34
2-2 Advanced BIOS Features	36
2-3 Integrated Peripherals	38
2-4 Power Management Setup	42
2-5 PnP/PCI Configurations	44
2-6 PC Health Status	45
2-7 MB Intelligent Tweaker (M.I.T.)	46
2-8 Load Fail-Safe Defaults	48
2-9 Load Optimized Defaults	49
2-10 Set Supervisor/User Password	49
2-11 Save & Exit Setup	50
2-12 Exit Without Saving	50

第 3 章 ドライバのインストール	51
3-1 チップセットドライバのインストール	51
3-2 ソフトウェアのアプリケーション	52
3-3 ドライバ CD 情報	52
3-4 ハードウェアの情報	53
3-5 当社への御連絡	53
第 4 章 付録	55
4-1 ユニークソフトウェアユーティリティ	55
4-1-1 EasyTune 5 紹介	56
4-1-2 Xpress Recovery 紹介	57
4-1-3 BIOS のフラッシュ方法の説明	60
4-1-4 シリアル ATA BIOS 設定ユーティリティ紹介	71
4-1-5 2 / 4 / 5.1 / 7.1 チャンネルオーディオ機能紹介	78
4-2 トラブルシューティング	84

GA-8I915P Dual Graphic マザーボード配置図



ブロック図



(注) DDR II 600 メモリモジュールをマザーボードで使用するには、800MHz FSB プロセッサのインストールおよび BIOS でのオーバークロックが設定が必要です。

[illegible]

第1章 ハードウェアのインストール

1-1 取り付け前に

コンピュータを用意する

マザーボードには、静電放電(ESD)により損傷を受ける、様々な精密電子回路および装置が搭載されていますので、取り付け前に、以下をよくお読みください：

1. コンピュータをオフにし、電源コードのプラグを外します。
2. マザーボードを取り扱う際は、金属部またはコネクタに触れないでください。
3. 電子部品(CPU、RAM)を取り扱う際は、静電防止用(ESD)ストラップを着用してください。
4. 電子部品を取り付ける前に、電子部品を静電防止パッドの上、または静電シールドコンテナ内に置いてください。
5. マザーボードから電源コネクタのプラグを抜く前に、電源が切断されていることを確認してください。

取り付け時のご注意

1. 取り付けの前に、マザーボードに貼布されているステッカーを剥がさないでください。これらのステッカーは、保証の確認に必要となります。
2. マザーボード、またはハードウェアを取り付ける前に、必ず、マニュアルをよくお読みください。
3. 製品を使用する前に、すべてのケーブルと電源コネクタが接続されていることを確認してください。
4. マザーボードへの損傷を防ぐため、ネジをマザーボード回路、またはその機器装置に接触させないでください。
5. マザーボードの上、またはコンピュータケースの中に、ねじ或いは金属部品を残さないようにしてください。
6. コンピュータを不安定な場所に置かないでください。
7. 取り付け中にコンピュータの電源を入れると、システムコンポーネントまたは人体への損傷に繋がる恐れがあります。
8. 取り付け手順や製品の使用に関する疑問がある場合は、公認のコンピュータ技師にご相談ください。

保証対象外

1. 天災地変、事故又はお客様の責任により生じた破損。
2. ユーザマニュアルに記載された注意事項に違反したことによる破損。
3. 不適切な取り付けによる破損。
4. 認定外コンポーネントの使用による破損。
5. 許容パラメータを超える使用による破損。
6. Gigabyte 製品以外の製品使用による破損。

1-2 特長の概略

CPU	◆ 最新の Intel® Pentium® 4 LGA775 CPU 対応 ◆ 800/533MHz FSB をサポート ◆ L2 キャッシュは CPU により異なります
チップセット	◆ ノースブリッジ : Intel® 915P エキスプレスチップセット ◆ サウスブリッジ : Intel® ICH6R
Memory	◆ 2 DDR DIMM メモリスロット(最大 4GB のメモリをサポート)^(注 1) ◆ 2.5V DDR DIMM をサポート ◆ デュアルチャネル DDR 400/333 DIMM をサポート ◆ 2 DDR II DIMM メモリスロット(最大 4GB のメモリをサポート)^(注 1) ◆ 1.8V DDR II DIMM をサポート ◆ デュアルチャネル DDR II 600^(注 2)/533/400 DIMM をサポート (注 : 混合モード、即ち DDR および DDR II メモリモジュールの同時搭載はサポートされていません。)
スロット	◆ 2 個の PCI エキスプレス x16 スロット ◆ 1 個の PCI エキスプレス x1 スロット ◆ 3 個の PCI スロット
IDE 接続	◆ 1 つの IDE 接続(UDMA 33/ATA 66/ATA 100)で、2 台の IDE デバイス (IDE1)に接続可能 ◆ 2 つの IDE 接続(UDMA 33/ATA 66/ATA 100/ATA 133)、RAID 互換により、4 台の IDE デバイス(IDE2、IDE3)に接続可能
FDD 接続	◆ 1 つの FDD 接続で、2 台の FDD デバイスに接続可能
オンボード SATA	◆ 4 つのシリアル ATA コネクタ
周辺装置	◆ 1 個の平行ポートで通常/EPP/ECP モードをサポート ◆ 1 個のシリアルポート(COMA) ◆ 8 個の USB 2.0/1.1 ポート(後部 x4、前部 x4 ケーブル経由) ◆ 3 個の IEEE1394 ポート(要ケーブル) ◆ 1 個のフロントオーディオコネクタ ◆ 1 個の IR コネクタ ◆ 1 個の PS/2 キーボードポート ◆ 1 個の PS/2 マウスポート
オンボード LAN	◆ オンボード Marvell 8001 チップ(10/100/1000 Mbit) ◆ 1 個の RJ45 ポート

(注 1) 標準 PC アーキテクチャに基づき、一定量のメモリがシステム用途に確保されます。従って、実際のメモリサイズは規定量より少なくなります。

例えば、4 GB のメモリサイズはシステム起動時には 3.xxGB と表示されます。

(注 2) DDR II 600 メモリモジュールをマザーボードで使用するには、800MHz FSB プロセッサのインストールおよび BIOS でのオーバークロックが設定が必要です。

オンボードオーディオ	◆ C-Media 9880 CODEC ◆ Jack-Sensing サポート ◆ 2 / 4 / 5.1 / 7.1 チャンネルオーディオをサポート ◆ Line 入力をサポート ; Line 出力 ; マイク ; バックサラウンド スピーカー出力 ; センター/サブウーファー スピーカー出力 ; サラウンドスピーカー出力接続 ◆ SPDIF 入/出力コネクタをサポート ◆ CD 入力
オンボード SATA RAID	◆ オンボード ICH6R チップセット ◆ データのストライピング(RAID 0)およびミラーリング(RAID 1)機能対応 ◆ 最大 150MB のデータ転送速度対応 ◆ ホットプラグ機能対応(AHCI モードのみ) ◆ 最大 4 つの SATA 接続に対応 ◆ Win 2000/XP オペレーティングシステム対応
オンボード IDE RAID (IDE2、IDE3)	◆ 内蔵 VT6410 チップセット ◆ ディスクストライピング(RAID 0)、ディスクミラーリング(RAID 1)またはストライピング+ミラーリング(RAID 0 + RAID 1)対応 ◆ JBOD 機能をサポート ◆ コンカレントデュアル ATA133 IDEコントローラ操作をサポート ◆ HDD 用に ATAPI モードをサポート ◆ IDE バスマスタ操作をサポート ◆ 起動中に状態およびエラーチェックメッセージを表示 ◆ ミラーリングは自動バックグラウンドリビルドをサポート ◆ オンボード BIOS のコントローラで LBA および 13 個のドライブトランスレーション拡張割り込みに対応
I/O コントロール	◆ IT8712
ハードウェアモニタ	◆ システム電圧検出 ◆ CPU 温度検出 ◆ CPU/システム/パワーファン速度検出 ◆ CPU 温度警告 ◆ CPU/システム/パワーファン故障警告 ◆ CPU スマートファンコントロール
BIOS	◆ ライセンス済み AWARD BIOS の使用 ◆ デュアル BIOS/Q-Flash をサポート
その他の機能	◆ @BIOS をサポート ◆ EasyTune 5 をサポート
オーバークロック	◆ BIOS によりオーバークロック(CPU/DDR/PCI-E/FSB) ◆ BIOS によりオーバークロック(CPU/DDR/PCIE)
フォームファクター	◆ ATX フォームファクタ(30.5cm x 24.4cm)

1-3 CPU とヒートシンクの取り付け



CPU を取り付ける前に、以下の手順に従ってください：

1. マザーボードが CPU をサポートすることを確認してください。
2. CPU の刻み目のある角に注目してください。CPU を間違った方向に取り付けると、適切に装着することが出来ません。装着できない場合は、CPU の挿入方向を変えてください。
3. CPU とヒートシンクの間にヒートシンクペーストを均等に塗布してください。
4. CPU のオーバーヒートおよび永久的損傷が生じないように、システムを使用する前に、ヒートシンクが CPU に適切に取り付けられていることを確認してください。
5. プロセッサ仕様に従い、CPU ホスト周波数を設定してください。周辺機器の標準規格に適合しないため、システムバス周波数をハードウェア仕様以上に設定しないことをお勧めします。仕様以上に周波数を設定する場合は、CPU、グラフィックスカード、メモリ、ハードドライブ等を含むハードウェア仕様に従って設定してください。



ハイパースレディング機能に必要な条件：

ご使用のコンピュータシステムでハイパースレディングテクノロジーが有効となるには下記のプラットフォームコンポーネント条件を全て満たしている必要があります。

- CPU：ハイパースレディングテクノロジー対応 Intel® Pentium 4 プロセッサ
- チップセット：ハイパースレディングテクノロジー対応 Intel®チップセット
- BIOS：ハイパースレディングテクノロジー対応 BIOS およびその設定が有効になされる
- OS：ハイパースレディングテクノロジー対応の最適化機能を有するオペレーティングシステム

1-3-1 CPU の取り付け



図 1

CPU ソケットに位置する金属レバーを垂直にゆっくり引き上げます。

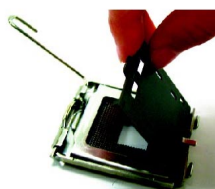


図 2

CPU ソケットのプラスチックカバーを外してください。

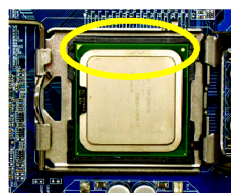


図 3

CPU ソケット端に位置する小さな金色の三角形に注目します。CPU の刻み目のある角を三角形に合わせ、CPU を静かに



図 4

CPU が適切に挿入された後、ローディングプレートを元に戻し、金属レバーを元の位置に押し戻します。

装着します。(CPU を親指と 4 本の指でしっかりとつかみ、直線的な下方動作でソケットに押し込みます。装着時に CPU の損傷を引き起こす可能性のある、ひねりや曲げ動作は避けてください。)

1-3-2 ヒートシンクの取り付け



図 1
取り付けられたCPU表面にヒートシンクペーストを均一に塗ります。

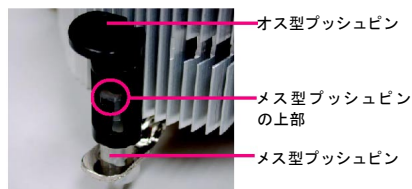


図 2
(プッシュピンを矢印方向に回し、ヒートシンクを取り外します。その反対は装着となります。)
装着前に、オス型プッシュピンの矢印方向を内向きにしないように注意してください。(この説明はインテルボックスファンのみに適用されます)

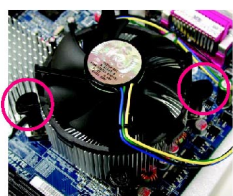


図 3
ヒートシンクをCPUの上のにせ、プッシュピンがマザーボード上のピン穴に向いているか確認します。プッシュピンを斜めに押し下げます。

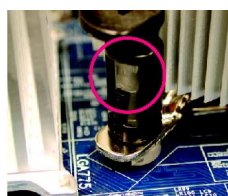


図 4
オス型とメス型プッシュピンが緊密に接合されているか確認します。(詳細な装着方法については、ユーザマニュアルのヒートシンク装着セクションを参照ください)

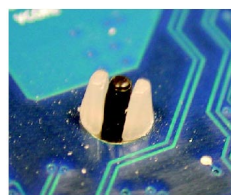


図 5
装着後にマザーボード背面をチェックしてください。プッシュピンが図のように挿入されていれば、装着は完了です。

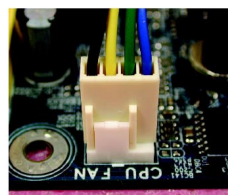


図 6
最後にヒートシンクの電源コネクタをマザーボードにある CPU ファンヘッダに接続します。



ヒートシンクペーストの硬化により、ヒートシンクがCPUに付着する場合があります。付着を防止するには、ヒートシンクペーストの代わりにサーマルテープを使用し、熱を発散させるか、またはヒートシンクを取外す際は慎重に行ってください。

1-4 メモリの取り付け



メモリモジュールを取り付ける前に、以下の手順に従ってください：

1. ご使用のメモリがマザーボードにサポートされているかどうかを確認してください。同様の容量、仕様、および銘柄のメモリをご使用することをお勧めします。
2. ハードウェアへの損傷を防ぐため、メモリモジュールの取り付け/取り外し前に、コンピュータの電源を切ってください。
3. メモリモジュールは、きわめて簡単な挿入設計となっています。メモリモジュールは、一方向のみに取り付けことができます。モジュールを挿入できない場合は、方向を換えて挿入してください。

マザーボードは、DDR II および DDR メモリモジュールをサポートし、BIOS は自動的にメモリ容量と仕様を検出します。メモリモジュールは、一方向のみに挿入するように設計されています。各スロットには異なる容量のメモリを使用できます。

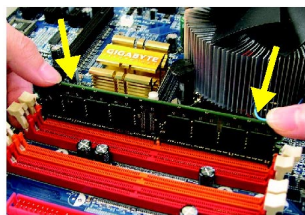
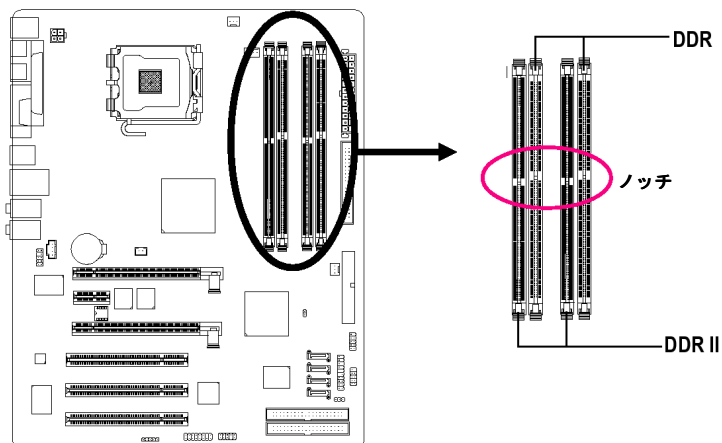


図 1
DIMM ソケットにはノッチがあり、DIMM メモリモジュールは一方方向のみに挿入する必要があります。DIMM メモリモジュールを DIMM ソケットに垂直に挿入し、押し下げてください。

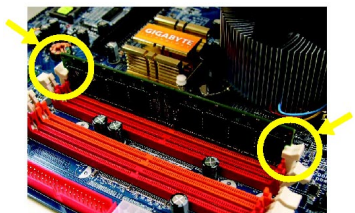


図 2
DIMM ソケットの両側にあるプラスチックのクリップを閉じて、DIMM モジュールを固定します。DIMM モジュールを取り外すにはインストールと逆の手順で行います。

デュアルチャンネル DDR/DDR II

GA-8I915P Dual Graphic はデュアルチャンネルテクノロジーをサポートしています。デュアルチャンネルテクノロジーを作動する場合、メモリバンド幅が増えます。

チップセットの制約のため、デュアルチャンネルテクノロジー利用には、下記のデュアルチャンネルメモリ設定方法に従ってください。

1. インストールされている DDR/DDR II メモリモジュールが 1 枚の時は、デュアルチャンネルメモリは使用できません。
2. 2 枚のメモリモジュール(同一ブランド、容量、チップ、クロックを推奨)をデュアルチャンネルモードで使用するには、同一カラーの DIMM ソケットに装着する必要があります。

以下は、デュアルチャンネルメモリ設定表です：(DS：両面実装、SS：片面実装)

	DDR 1	DDR 2
2枚のメモリモジュール	DS/SS	DS/SS

または

	DDR 1	DDR II 2
2枚のメモリモジュール	DS/SS	DS/SS

注：混合モード、即ち DDR および DDR II メモリモジュールの同時搭載はサポートされていません。

1-5 拡張カードのインストール

以下の手順に従い、拡張カードを取り付けてください：

1. 拡張カードのインストールに先立ち、関連した指示説明をお読みください。
2. コンピュータからケースカバー、固定用ネジ、スロットブラケットを外します。
3. マザーボードの拡張スロットに拡張カードを確実に差しします。
4. カードの金属接点面がスロットに確実に収まったことを確認してください。
5. スロットブラケットのネジを戻して、拡張カードを固定します。
6. コンピュータのシャーシカバーを戻します。
7. コンピュータの電源をオンにします。必要であれば BIOS セットアップから拡張カード対象の BIOS 設定を行います。
8. オペレーティングシステムから関連のドライバをインストールします。

PCI エクスプレス x 16 拡張カードを取り付ける：



注意

PCI カードの装着/取り外し時には、エクスプレス x 16 スロット端の小さい白色の取り外しバーを注意深く引いてください。VGA カードをオンボード PCI エクスプレス x 16 スロットにそろえ、スロットに確実に押し込んでください。ご使用になる VGA カードが小さな白いバーによってロックされたことを確認してください。



注 GA-8I915P Dual Graphic では、同一チップ使用でデュアルビューをサポートする PCI Express グラフィックスカード 2 枚の併用により 4 画面設定(Quad View)が可能です。

1-6 Quad View システムの設定

この機能は Windows XP オペレーティングシステムでのみサポートされます。
GIGABYTE 開発の Quad View テクノロジーにより、マザーボードは最大4画面への出力が可能となります。これにより 4 基のモニタに複数のウィンドウを同時表示することで処理能力および生産性が向上されます。ゲーマーにとり、Quad View テクノロジーは“control”および“telemetry”ウィンドウを専用画面に表示することで、より豊かな臨場感が実現されます。



マルチ表示のサポートで生産性向上



マルチ表示のサポートで臨場感あふれるビデオ/ゲーム体験

操作の準備

デュアルグラフィックディップスイッチ(SW1)の説明-

第1および第2PCIEx16スロットの間にデュアルグラフィックディップスイッチ(SW1)があります。デュアルグラフィックディップスイッチには4個のピンがあります。PCIEx16スロットを使用する場合は4個のピンをOFFの位置にします。PCIEx16スロットを使用するにはONの位置にします。グラフィックスカード1枚のシステムを構成するには、よりよい表示機能のためグラフィックスカードはPCIEx16_1スロットにインストールしてください。

2基のPCIEx16スロットは2モードで動作します(この際SW1の4個のピンは皆ONの位置に設定しますが、PCIEx16_1スロットはこのモードでは使用不可となります)。これらは独立したPCIEx16スロット(PCIEx16_1)およびその他独立したPCIEx4スロット(PCIEx16_2)として、または2枚の同様のVGAカード(例: GIGABYTE GV-NX66T128D)をインストールして使用できます。

実際に必要な電力は全体的なシステム設定に依存します。ご使用のシステムおよび2枚のグラフィックスカードに必要な十分な安定した電力が提供できる電源をご使用ください。推奨電源は400w(またはそれ以上)および25A(またはそれ以上)+12Vの定格です。PCIEx16_2およびPCIEx16_1スロットの使用可能状態はSW1設定に依存します。下表をご参照ください。

SW1 : オン		SW1 : オフ	
PCIEx16_2	有効*	PCIEx16_2	有効**
PCIEx16_1	無効	PCIEx16_1	有効

“*” 最大PCIEx4モードをサポート

“**” 最大PCIEx1モードをサポート

SW1はPCIEx16_1およびPCIEx16_2スロットのみ制御します。PCIEx16_1スロットは常に有効です。



注意

PCIEx16_1スロットが有効でないときにデバイスをインストールすると、システム故障の原因となります。

Quad View モードの有効化

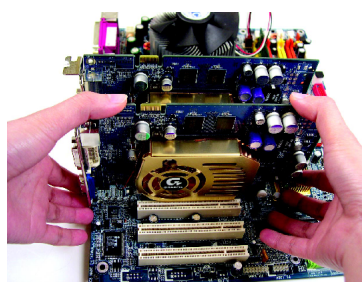
ステップ 1: Quad View モードを有効にするには下記のステップにしたがってください。
最初のステップとしては、デュアルグラフィックディップスイッチ(SW1)の 4
個のピンを皆 ON の位置にします。



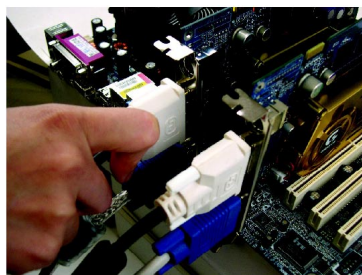
注: この図の黒いブロックはデュアルグラフィックスディップスイ
ッチ(SW1)の 4 個ピンを表しています。

ステップ 2: グラフィックスカードを
PCI_E_16_1 および PCI_E_16_2 スロ
ットにインストールします。

ステップ 2-1: “1-5 拡張カードのインストール”
に従って 2 枚の同様の VGA カ
ードを PCI_E_16_1 および PCI_E_16_2
スロットにインストールしま
す。



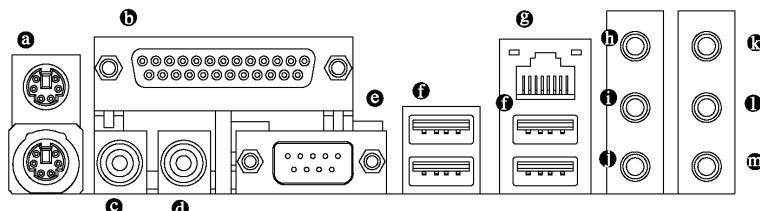
ステップ 2-2: Quad View 機能を正しく機能させ
るため、4 個のビデオ出力ポート
(D-Sub/DVI)を 4 基のモニタに接続
します。(システムに 1 枚のグラ
フィックスカードのみインスト
ールする場合は PCI_E_16_1 スロ
ットに装着し、Init Display First
項目を PEG に設定します。カードを
PCI_E_16_2 スロットに装着した場
合はこの項目を PEG2 に設定しま
す。



ステップ 3: グラフィックスカードドライバの設定

グラフィックスカードドライバのインストール方法の詳細は、お持ちのグラフィックス
カードのマニュアルをご参照ください。

1-7 I/O 後部パネルの紹介



- a PS/2 キーボードおよび PS/2 マウスコネクタ**
PS/2 ポートキーボードとマウスを接続するには、マウスを上部ポート (緑色) に、キーボードを下部ポート (紫色) に差し込んでください。
- b パラレルポート**
パラレルポートは、プリンタ、スキャナ、および他の周辺装置に接続することができます。
- c SPDIF_O (SPDIF 出力)**
SPDIF 出力はデジタルオーディオを外部スピーカーに、AC3 圧縮データを外部ドルビーデジタルデコーダーに出力できます。
- d SPDIF_I (SPDIF 入力)**
デバイスにデジタル出力機能が装備されている場合のみ、SPDIF 入力機能を使用してください。
- e COM A (シリアルポート)**
シリアルベースのマウス、またはデータ処理デバイスに接続します。
- f USB ポート**
USB コネクタに USB キーボード、マウス、スキャナー、zip、スピーカーなどを接続する前に、ご使用になるデバイスが標準の USB インタフェースを装備していることをご確認ください。
またご使用の OS が USB コントローラをサポートしていることもご確認ください。ご使用の OS が USB コントローラをサポートしていない場合は、OS ベンダーに利用可能なパッチやドライバの更新についてお問い合わせください。詳細はご使用の OS やデバイスのベンダーにお問い合わせください。
- g LAN ポート**
インターネット接続は、Gigabit イーサネットであり、10/100/1000Mbps のデータ転送速度が提供されます。
- h ライン入力**
CD-ROM やウォークマンなどはライン入力ジャックに接続できます。
- i ライン出力(フロントスピーカー出力)**
ステレオスピーカー、イヤホンまたはフロントサラウンドチャンネルをこのコネクタに接続してください。
- j マイク入力**
マイクロホンは MIC 入力ジャックに接続します。
- k バックサラウンドスピーカ出力**
バックサラウンドチャンネルをこのコネクタに接続してください。

① センター/サブウーファースピーカー出力

センター/サブウーファーチャンネルをこのコネクタに接続してください。

② サラウンドスピーカー出力

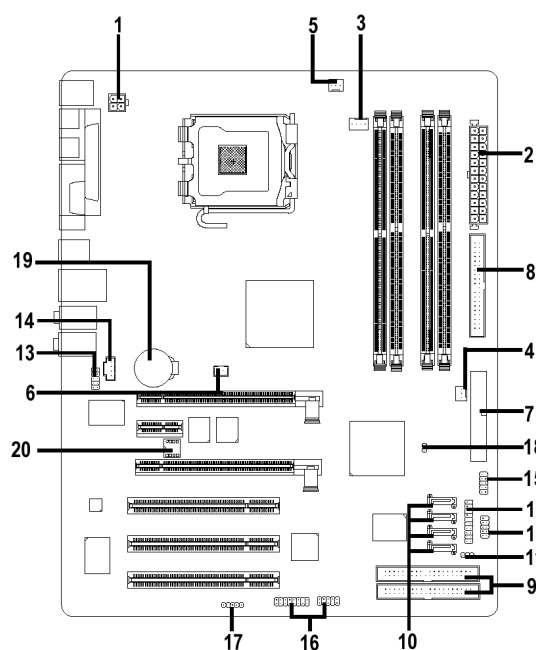
サラウンドチャンネルをこのコネクタに接続してください。



注

オーディオソフトを使用し、2-/4-/5.1-/7.1-チャンネルの音声機能を設定することができます。

1-8 コネクタはじめに



1) ATX_12V	11) PWR_LED
2) ATX (Power Connector)	12) F_PANEL
3) CPU_FAN	13) AZALIA_FP
4) SYS_FAN	14) CD_IN
5) PWR_FAN	15) F_USB1 / F_USB2
6) NB_FAN	16) F1_1394 / F2_1394
7) FDD	17) IR
8) IDE	18) CLR_CMOS
9) IDE2/IDE3	19) BAT
10) S_ATA0 / S_ATA1 / S_ATA2 / S_ATA3	20) SW1

1/2) ATX_12V/ATX (電源コネクタ)

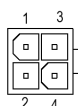
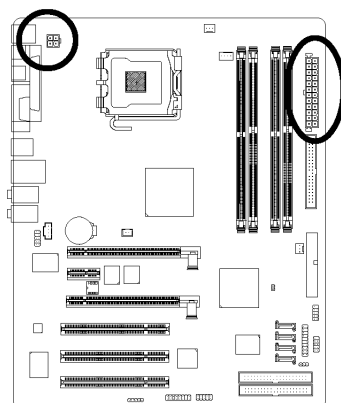
電源コネクタの使用により、安定した十分な電力をマザーボードのすべてのコンポーネントに供給することができます。電源コネクタを接続する前に、すべてのコンポーネントとデバイスが適切に取り付けられていることを確認してください。電源コネクタをマザーボードにしっかり接続してください。

ATX_12V 電源コネクタは、主に CPU に電源を供給します。ATX_12V 電源コネクタが適切に接続されていない場合、システムは作動しません。

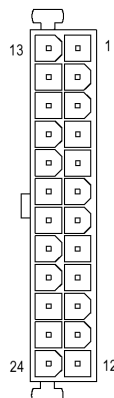
注意！

システムの電圧規格に適合するパワーサプライを使用してください。高電力消費 (300W 以上) に耐え得る電源をご使用することをお勧めします。必要な電力を提供できないパワーサプライを使用される場合、結果として不安定なシステムまたは起動ができないシステムになります。

24 ピン ATX 電源を使用する場合、電源コネクタ上のカバーを取り外し電源コードを接続してください。それ以外の使用時はカバーをはずさないでください。



ピン番号	定義
1	GND
2	GND
3	+12V
4	+12V



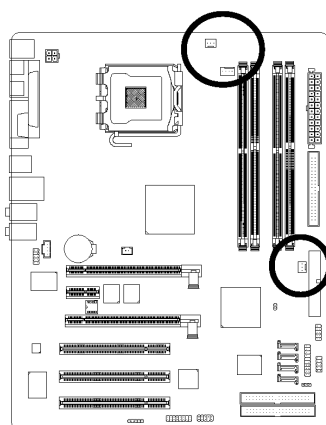
ピン番号	定義
1	3.3V
2	3.3V
3	GND
4	+5V
5	GND
6	+5V
7	GND
8	電源装置
9	5V SB (スタンバイ+5V)
10	+12V
11	+12V
12	3.3V (24 ピン ATX のみ)
13	3.3V
14	-12V
15	GND
16	PS_ON (ソフトオン/オフ)
17	GND
18	GND
19	GND
20	-5V
21	+5V
22	+5V
23	+5V
24	GND

3/4/5) CPU_FAN / SYS_FAN / PWR_FAN (クーラーファン電源コネクタ)

クーラーファン電源コネクタは、3ピン/4ピン(CPUファン専用)電源コネクタ経由で+12V 電圧を供給し、接続が誰でも簡単にできるよう設計されています。ほとんどのクーラーには、色分けされた電源コネクタワイヤが装備されています。赤色電源コネクタワイヤは、正極の接続を示し、+12V 電圧を必要とします。黒色コネクタワイヤは、アース線(GND)です。システムのオーバーヒートや故障を防ぐため、必ず、クーラーに電源を接続してください。

注意！

CPU のオーバーヒートや故障を防ぐため、必ず、CPU ファンに電源を接続してください。



CPU_FAN



PWR_FAN

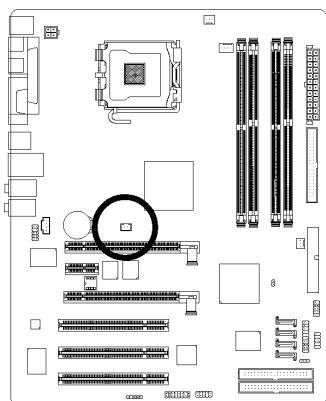


SYS_FAN

ピン番号	定義
1	GND
2	+12V
3	Sense
4	速度制御 (CPU_ファンのみ)

6) NB_FAN (チップセットファンコネクタ)

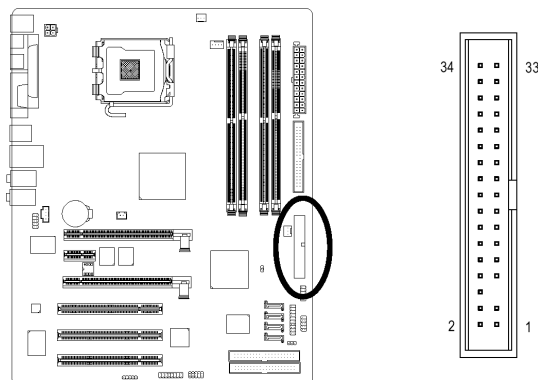
間違った方向に接続すると、チップファンは動作しません。チップファンの故障の原因となります。(通常黒いケーブルは接地用 GND です)



ピン番号	定義
1	+12V
2	GND

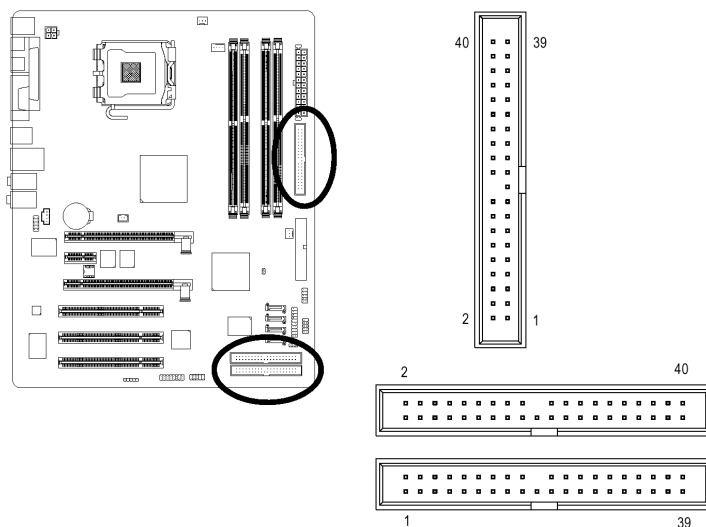
7) FDD (フロッピーコネクタ)

FDD コネクタは、FDD ケーブルの接続に使用し、もう一端は FDD ドライブに接続します。対応 FDD ドライブの種類は以下の通りです：360KB、720KB、1.2MB、1.44MB、および 2.88MB 赤色電源コネクタワイヤをピン 1 位置に接続してください。



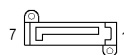
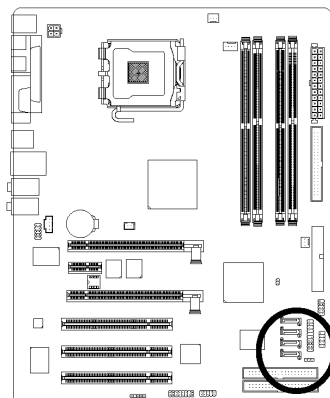
8/9) IDE1 / IDE2 / IDE3 (IDE コネクタ)

IDE デバイスは IDE コネクタによりコンピュータに接続します。1 つの IDE コネクタには 1 本の IDE ケーブルを接続でき、1 本の IDE ケーブルは 2 台の IDE デバイス(ハードドライブや光学式ドライブ)に接続できます。2 台の IDE デバイスを接続する場合は、一方の IDE デバイスのジャンパをマスターに、もう一方をスレーブに設定します(設定の情報は、IDE デバイスの指示を参照ください)。IDE CD-ROM ドライブが正しく動作するよう、IDE 1 コネクタに接続してください。



10) SATA0 / SATA1 / SATA2 / SATA3 (シリアル ATA コネクタ)

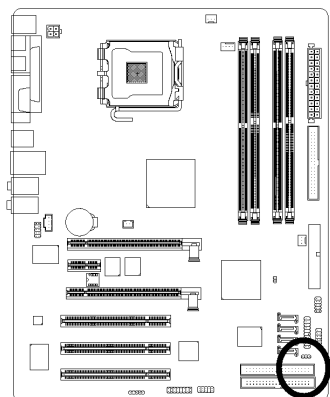
シリアル ATA は、150MB/秒の転送速度を提供することができます。正しく動作させるため、シリアル ATA の BIOS 設定を参照し、適切なドライバをインストールしてください。



ピン番号	定義
1	GND
2	TXP
3	TXN
4	GND
5	RXN
6	RXP
7	GND

11) PWR_LED

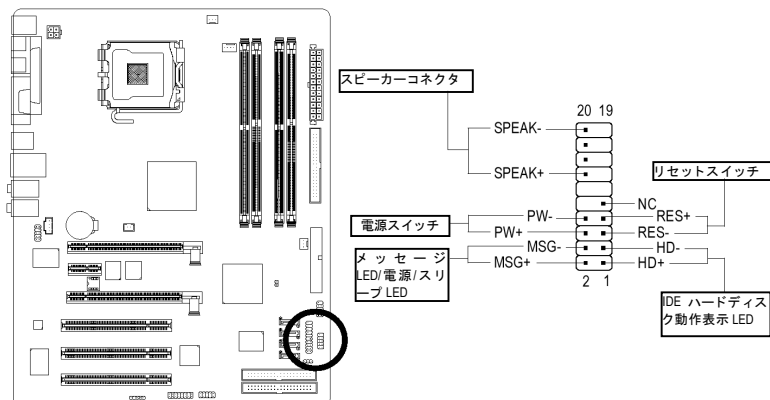
PWR_LED はシステム電源表示ランプに接続してシステムのオン/オフを表示します。システムがサスペンドモードになると点滅します。



ピン番号	定義
1	MPD+
2	MPD-
3	MPD-

12) F_PANEL (フロントパネルジャンパ)

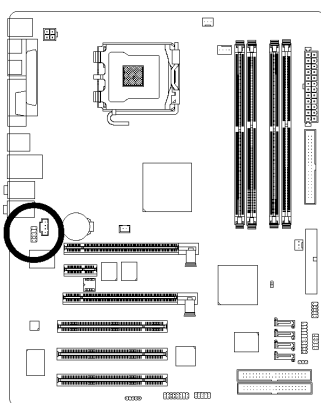
ご使用のケースのフロントパネルにある電源 LED、PC スピーカー、リセットスイッチおよび電源スイッチなどを以下のピン配列にしたがって、F_PANEL に接続します。



HD (IDE ハードディスク動作表示 LED)(青)	ピン 1 : LED 正極(+) ピン 2 : LED 負極(-)
SPEAK (スピーカーコネクタ) (アンパー)	ピン 1 : 電源 ピン 2-ピン 3 : NC ピン 4 : Data (-)
RES (リセットスイッチ) (緑)	オープン : 通常 ショート : ハードウェアシステムのリセット
PW (電源スイッチ) (赤)	オープン : 通常 ショート : 電源オン/オフ
MSG (メッセージ LED/電源/スリープ LED)(黄色)	ピン 1 : LED 正極(+) ピン 2 : LED 負極(-)
NC (紫)	NC

13) AZALIA_FP (AZALIA フロントオーディオ・パネルコネクタ)

このコネクタは HD(ハイデフィニション)オーディオと AC'97 オーディオコネクタに対応しています。オーディオパネルケーブルの接続の際は、ピン配列を充分にご確認ください。ケーブルとコネクタ間での誤った接続をするとデバイスの動作不能や故障の原因となります。オプションのオーディオパネルケーブルのお求めは最寄の販売店にお問い合わせください。



HD オーディオ :

ピン番号	定義
1	MIC2_L
2	GND
3	MIC2_R
4	-ACZ_DET
5	Line2_R
6	FSENSE1
7	FAUOIO_JD
8	ピンなし
9	LINE2_L
10	FSENSE2

AC'97 オーディオ :

ピン番号	定義
1	MIC
2	GND
3	MIC 電源
4	NC
5	ライン出力(R)
6	NC
7	NC
8	ピンなし
9	ライン出力(L)
10	NC

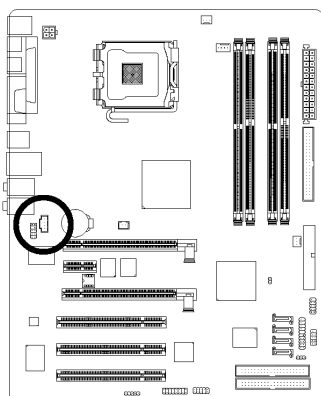


注

このコネクタは HD(ハイデフィニション)オーディオが初期設定となっています。AC'97 オーディオを有効にする場合は、BIOS 設定から **Integrated Peripherals to AC'97** 画面に入り、**Front Panel Type** を設定ください。

14) CD_IN (CD 入力)

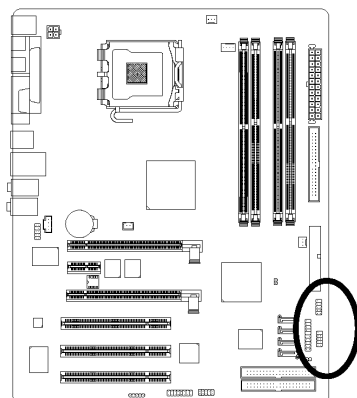
CD-ROM または DVD-ROM のオーディオ出力はこのコネクタに接続します。



ピン番号	定義
1	CD-L
2	GND
3	GND
4	CD-R

15) F_USB1 / F_USB2 (フロント USB コネクタ)

フロントUSB コネクタの極性にご注意ください。フロントUSB ケーブルの接続にはピン配列をご確認ください。ケーブルとコネクタ間での誤った接続はデバイスの動作不能や故障の原因となります。オプション装備のフロント USB ケーブルのお求めには地元の販売店にお問い合わせください。"USB Device Wake up From S3"は後部 USB ポートのみでサポートされます。

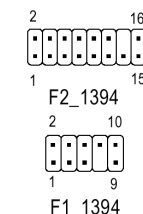
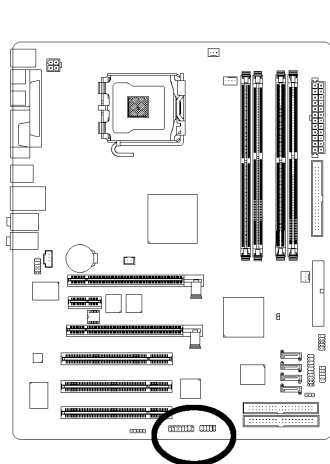


ピン番号	定義
1	電源
2	電源
3	USB Dx-
4	USB Dy-
5	USB DX+
6	USB Dy+
7	GND
8	GND
9	ピンなし
10	NC

16) F1_1394 / F2_1394 (IEEE1394 コネクタ)

電気電子学会で制定されたシリアルインタフェース規格で、高速転送、広帯域、およびホットプラグを特徴としています。

IEEE1394 コネクタの極性にご注意ください。IEEE1394 ケーブルの接続にはピン配列をご確認ください。ケーブルとコネクタ間での誤った接続はデバイスの動作不能や故障の原因となります。オプション装備の IEEE1394 ケーブルのお求めには地元の販売店にお問い合わせください。

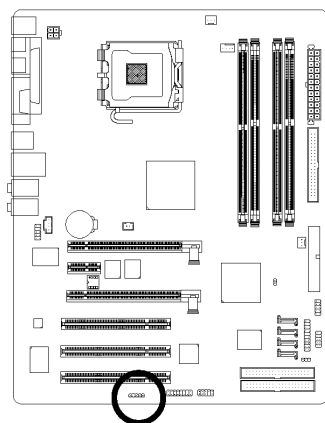


ピン番号	定義
1	TPA2+
2	TPA2-
3	GND
4	GND
5	TPB2+
6	TPB2-
7	ピンなし
8	電源
9	電源
10	GND

ピン番号	定義
1	電源
2	電源
3	TPA0+
4	TPA0-
5	GND
6	GND
7	TPB0+
8	TPB0-
9	電源
10	電源
11	TPA1+
12	TPA1-
13	GND
14	ピンなし
15	TPB1+
16	TPB1-

17) IR

IR を接続する際は、IR コネクタの極性にご注意ください。オプションの IR デバイスの購入に関しては、最寄の販売店にお問合せください。

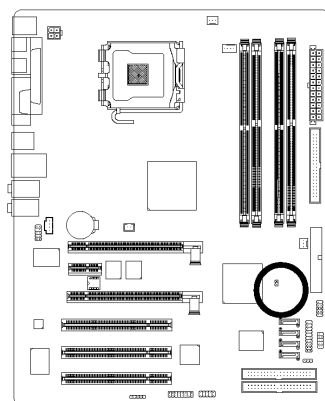


1

ピン番号	定義
1	VCC
2	ピンなし
3	IR RX
4	GND
5	IR TX

18) CLR_CMOS (CMOS クリア)

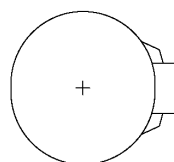
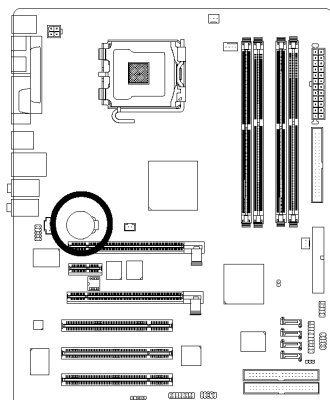
このジャンパーにより、CMOS データをクリアしてデフォルト値に復元できます。CMOS のクリアには一時的に 1-2 番ピンをショートさせます。デフォルトではジャンパーの不適切な使用を防ぐ「シャンター(shunter)」はありません。



1 オープン : 通常

1 ショート : CMOS クリア

19) BAT (バッテリー)

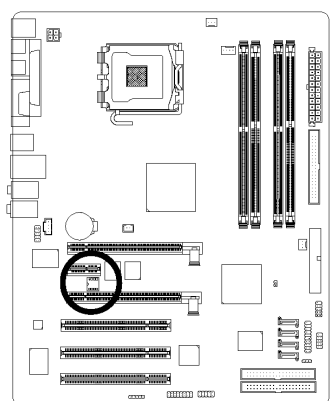


- ❖ バッテリーの交換を間違えると爆発の危険があります。
- ❖ メーカー推奨と同一のタイプの物と交換してください。
- ❖ 使用済みバッテリーはメーカーの指示に従って廃棄してください。

CMOS 内容を消去するには...

1. コンピュータをオフにし、電源コードのプラグを外します。
2. バッテリーを外して、30 秒放置します。
3. バッテリーを入れなおします。
4. 電源コードのプラグを差し、コンピュータをオンにします。

20) SW1 (デュアルグラフィックスディップスイッチ)



PCI_E_16_2 スロットを使用またはデュアルグラフィックス機能を有効にするには、これらを全部 ON に設定します。



PCI_E_1 スロットを使用するには、これら 4 個のピンを皆 OFF にします。

日本語

[illegible]

第2章 BIOS のセットアップ

BIOS (Basic Input and Output System)には、ユーザが必要とする基本設定を設定可能、または特定のシステム機能を有効にする CMOS SETUP ユーティリティが含まれています。

CMOS SETUP は、マザーボードの CMOS SRAM に設定を保存します。

電源が OFF になると、マザーボードのバッテリーは必要な電源を CMOS SRAM に供給します。

電源を ON にし、BIOS POST (Power-On Self Test)中にボタンを押すと、CMOS SETUP 画面に入ることが出来ます。“Ctrl+F1”を押すと、BIOS SETUP 画面に入ることができます。

初めて BIOS を設定する際、BIOS を元の設定にリセットする必要がある場合に備えるために、ディスクに現在の BIOS 設定を保存することをお勧めします。新しい BIOS にアップグレードする場合は、Gigabyte の Q-Flash、または@BIOS ユーティリティのどちらかを使用することができます。

Q-Flashにより、OS に入ることなく、ユーザは、高速かつ容易に BIOS の更新、またはバックアップを行うことができます。@BIOS は、BIOS をアップグレードする前に、DOS へのブートを必要とせず、インターネットから BIOS を直接ダウンロード/更新できる、Windows ベースのユーティリティです。

制御用キー

<↑><↓><←><→>	選択項目に進む
<Enter>	項目の選択
<Esc>	メインメニュー—CMOS Status Page Setup Menu と Option Page Setup Menu を変更せずに終了—現在のページを終了し、メインメニューに戻る
<Page Up>	数値を増加または変更
<Page Down>	数値を減少または変更
<F1>	一般のヘルプ、Status Page Setup Menu および Option Page Setup Menu のみを対象
<F2>	項目のヘルプ
<F5>	CMOS を前の CMOS 設定に戻す、Option Page Setup Menu のみを対象
<F6>	BIOS デフォルトテーブルから安全なデフォルト CMOS 設定値をロード
<F7>	最適デフォルト値をロード
<F8>	デュアル BIOS/Q-Flash ユーティリティ
<F9>	システム情報
<F10>	CMOS 変更を全て保存、メインメニューのみを対象

メインメニュー

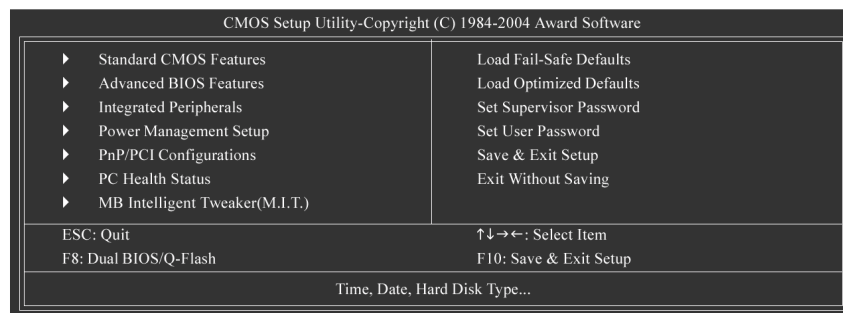
ハイライト表示された設定機能のオンライン説明がスクリーン下部に表示されます。

Status Page Setup メニュー/Option Page Setup メニュー

F1 を押すとハイライト表示された項目に使用可能なキーおよび可能な選択内容が小さなウィンドウに表示されます。ヘルプウィンドウを閉じるには<Esc>を押します。

メインメニュー(例 : BIOS Ver.: F1)

Award BIOS CMOS セットアップユーティリティを起動すると、画面にメインメニュー(下図に参照)が表示されます。矢印キーで項目を選び<Enter>を押して決定、またはサブメニューに進みます。



注

必要な設定項目が見当たらない場合は、“Ctrl+F1”を押して詳細設定を展開してください。システムがなんらかの原因で不安定になった場合は BIOS から Load Optimized Defaults(最適化デフォルト値のロード)を行ってください。これでシステムは初期の安定した状態に戻ります。

■ Standard CMOS Features

この設定ページには標準互換 BIOS 内の項目全部が含まれています。

■ Advanced BIOS Features

この設定ページには Award 専用拡張機能の項目全部が含まれています。

■ Integrated Peripherals

この設定ページにはオンボードペリフェラル項目が全て含まれています。

■ Power Management Setup

この設定ページには節電機能関連項目が全て含まれています。

■ PnP/PCI Configuration

この設定ページには PCI およびプラグアンドプレイ ISA リソースの設定項目が全て含まれています。

■ PC Health Status

この設定ページは、システムにより自動検出された温度、電圧、ファン速度が表示されます。

■ MB Intelligent Tweaker (M.I.T.)

この設定ページは CPU クロックおよびクロックレシオを調節するものです。

■ Load Fail-Safe Defaults

Fail-Safe Defaults はシステムが安定動作する設定値を表示します。

■ Load Optimized Defaults

Optimized Defaults はシステムが最良の性能で動作する設定値を表示します。

■ Set Supervisor Password

パスワードの変更、設定、無効化を行います。これでシステムおよびセットアップ、またはセットアップのみへのアクセスを制限します。

■ Set User Password

パスワードの変更、設定、無効化を行います。これでシステムへのアクセスを制限します。

■ Save & Exit Setup

CMOS 設定値を CMOS に保存し、セットアップを終了します。

■ Exit Without Saving

CMOS 設定値を全てキャンセルし、セットアップを終了します。

☞ Drive A / Drive B

この項目はコンピュータにインストールされたフロッピードライブ A またはドライブ B のタイプを設定します。

- ▶ None フロッピードライブはインストールされていません
- ▶ 360K, 5.25" 5.25 インチ PC 内蔵標準ドライブ ; 容量は 360K バイト。
- ▶ 1.2M, 5.25" 5.25 インチ AT タイプ高密度ドライブ ; 容量は 1.2M バイト (3 モードが有効の場合は 3.5 インチ)。
- ▶ 720K, 3.5" 3.5 インチ両面ドライブ ; 容量は 720K バイト
- ▶ 1.44M, 3.5" 3.5 インチ両面ドライブ ; 容量は 1.44M バイト。
- ▶ 2.88M, 3.5" 3.5 インチ両面ドライブ ; 容量は 2.88M バイト。

☞ Floppy 3 Mode Support (for Japan Area)

- ▶ Disabled 通常のフロッピードライブ。(デフォルト値)
- ▶ Drive A ドライブ A は 3 モードフロッピードライブです。
- ▶ Drive B ドライブ B は 3 モードフロッピードライブです。
- ▶ Both ドライブ A および B は 3 モードフロッピードライブです。

☞ Halt on

この項目で電源投入時にエラー検出があった場合に、コンピュータを停止するかどうかを決定します。

- ▶ No Errors システム起動時にエラー検出があっても表示されても、続行します。
- ▶ All Errors BIOS が重大ではないエラーを検出しても、システムは停止します。
- ▶ All, But Keyboard システム起動はキーボードエラーでは続行しますが、それ以外のエラーでは停止します。(デフォルト値)
- ▶ All, But Diskette システム起動はディスクエラーでは続行しますが、それ以外のエラーでは停止します。
- ▶ All, But Disk/Key システム起動はキーボードエラーまたはディスクエラーでは続行しますが、それ以外のエラーでは停止します。

☞ Memory

この項目は表示のみで、BIOS の POST (電源起動時セルフテスト)によって判断されます。

▶ Base Memory

BIOS の POST はシステムにインストールされているベース(コンベンショナル)メモリ容量を検出します。

ベースメモリ容量は通常 512K 搭載のマザーボードではシステム用に 512K で、640K 以上搭載のマザーボードではシステム用に 640K となります。

▶ Extended Memory

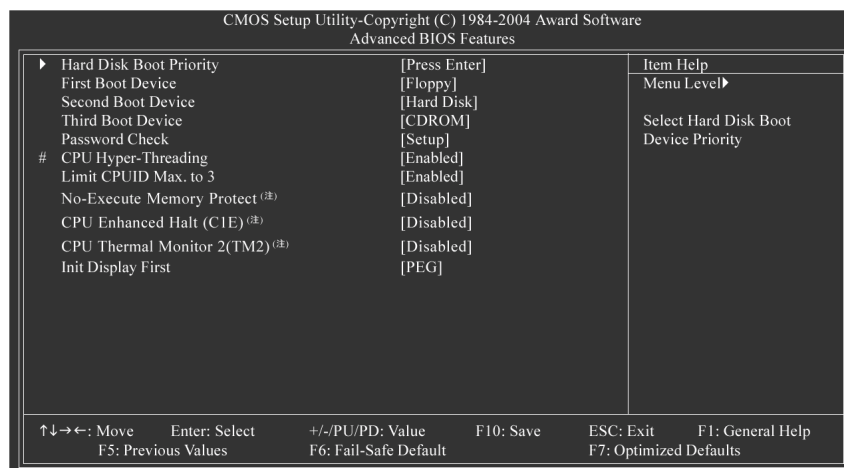
BIOS は POST 中に拡張メモリ容量を検出します。

これは CPU メモリアドレスマップ上で 1MB バイト以上に位置する容量です。

▶ Total Memory

このアイテムは使用したメモリ容量を表示します。

2-2 Advanced BIOS Features



注

“#” ハイパースレッディングテクノロジー対応の Intel® Pentium® 4 プロセッサが搭載されている場合は、システムにより自動検出されます。

☞ Hard Disk Boot Priority

オンボード(またはアドオンカード)の SCSI、RAID 等の起動順序を指定します。デバイス選択には<↑>または<↓>を使用し、リスト内は<+>で上方に移動また<->で下方に移動します。<ESC>を押すとこのメニューを終了します。

☞ First / Second / Third Boot Device

- ▶ Floppy 起動用デバイスの優先順位でフロッピーを指定します。
- ▶ LS120 起動用デバイスの優先順位で LS120 を指定します。
- ▶ Hard Disk 起動用デバイスの優先順位でハードディスクを指定します。
- ▶ CDROM 起動用デバイスの優先順位で CDROM を指定します。
- ▶ ZIP 起動用デバイスの優先順位で ZIP を指定します。
- ▶ USB-FDD 起動用デバイスの優先順位で USB-FDD を指定します。
- ▶ USB-ZIP 起動用デバイスの優先順位で USB-ZIP を指定します。
- ▶ USB-CDROM 起動用デバイスの優先順位で USB-CDROM を指定します。
- ▶ USB-HDD 起動用デバイスの優先順位で USB-HDD を指定します。
- ▶ LAN 起動用デバイスの優先順位で LAN を指定します。
- ▶ Disabled 起動用デバイスの優先順位で無効を指定します。

(注) この項目は当機能をサポートするプロセッサをインストールした時にのみ表示されます。

☞ Password Check

- ▶▶ Setup プロンプト時に正しいパスワードが入力されない場合は、システムは起動しますが、セットアップ画面は表示できません。
(デフォルト値)
- ▶▶ System プロンプト時に正しいパスワードが入力されない場合は、システムは起動せず、セットアップ画面も表示できません。
パスワードの設定を取り消す場合は、“ENTER”を押し、[SETUP]を空白にしてください。

☞ CPU Hyper-Threading

- ▶▶ Enabled CPU のハイパースレッディング機能を有効にします。この機能はマルチプロセッサモードをサポートするオペレーティングシステムでのみ動作する点にご注意ください。(デフォルト値)
- ▶▶ Disabled CPU ハイパースレッディングを無効にします。

☞ Limit CPUID Max. to 3

- ▶▶ Enabled NT4 の様な旧式の OS を使用する場合は、CPUID Maximum 値を 3 に制限してください。(デフォルト値)
- ▶▶ Disabled Windows XP の CPUID Limit を無効にします。

☞ No-Execute Memory Protect^(注)

- ▶▶ Enabled 非実行メモリ保護機能を有効にします。
- ▶▶ Disabled 非実行メモリ保護機能を無効にします。

☞ CPU Enhanced Halt (C1E)^(注)

- ▶▶ Enabled CPU 拡張停止(C1E)機能を有効にします。
- ▶▶ Disabled CPU 拡張停止(C1E)機能を無効にします。(デフォルト値)

☞ CPU Thermal Monitor 2 (TM2)^(注)

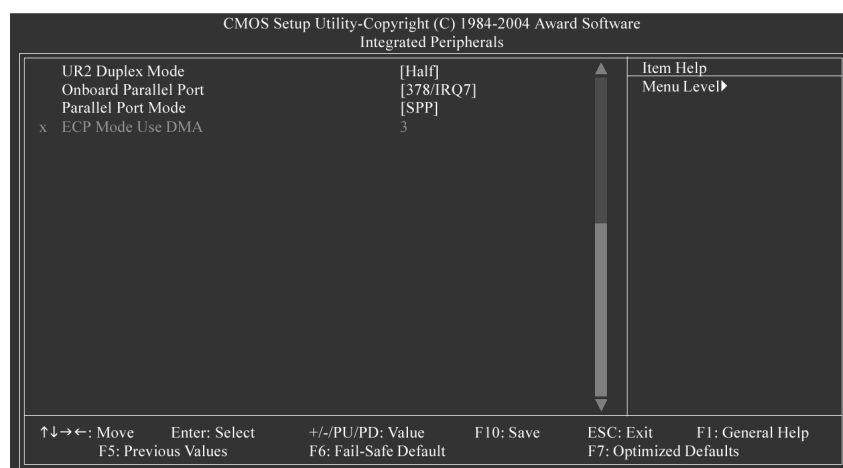
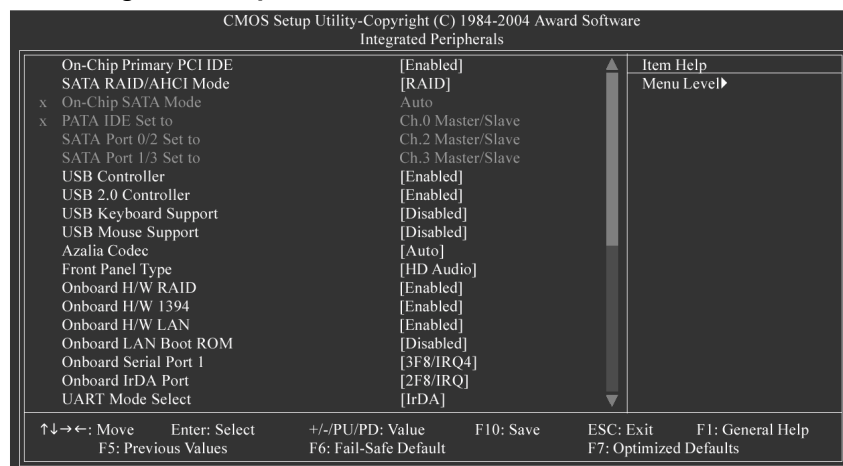
- ▶▶ Enabled CPU サーマルモニタ 2 (TM2)機能を有効にします。
- ▶▶ Disabled CPU サーマルモニタ 2 (TM2)機能を無効にします。(デフォルト値)

☞ Init Display First

- この機能で、ユーザーによりマザーボードにインストールされた PCI カードと PCI Express VGA カードのどちらをモニタ表示の初期設定とするかを指定できます。デュアルグラフィックス機能を正しく動作するには、PCI_E_16_2 スロットに装着されたグラフィックスカードにディスプレイケーブルを接続し、この項目を PEG2 に設定します。
- ▶▶ PCI 初期ディスプレイを優先に PCI VGA カードに設定。
 - ▶▶ PEG 初期ディスプレイを優先に PCI エキスプレス VGA カードに設定(スロット 1)。(デフォルト値)
 - ▶▶ PEG2 初期ディスプレイを優先に PCI エキスプレス VGA カードに設定(スロット 2)。デュアルグラフィックス機能をご使用の場合に設定。

(注) この項目は当機能をサポートするプロセッサをインストールした時にのみ表示されます。

2-3 Integrated Peripherals



☞ **On-Chip Primary PCI IDE**

- | | |
|------------|---|
| ▶ Enabled | オンボードのプライマリチャンネル IDE のポートを有効にします。
(デフォルト値) |
| ▶ Disabled | オンボードのプライマリチャンネル IDE のポートを無効にします。 |

☞ **SATA RAID / AHCI Mode**

- ▶ RAID オンボードシリアル ATA 機能を RAID として選択します。
(デフォルト値)
- ▶ AHCI OS のホットプラグを対応します。Win XP、2000 のみ。
- ▶ Disabled オンボードシリアル ATA 機能を ATA として選択します。

- ☞ **On-Chip SATA Mode**
 - ▶▶ Disabled この機能を無効にします。
 - ▶▶ Auto BIOS は自動検出します。(デフォルト値)
 - ▶▶ Combined オンチップ SATA モードを Combined に設定すると、マザーボードにおいて最大 4 基の HDD が使用できます。SATA に 2 基、PATA IDE に 2 基となります。
 - ▶▶ Enhanced On-Chip SATA モードを Enhanced に設定すると、マザーボードにおいて最大 6 基の HDD が使用できます。
 - ▶▶ Non-Combined On-Chip SATA を Non-Combined に設定すると、SATA は、PATA モードにシミュレートされます。
- ☞ **PATA IDE Set to**
 - ▶▶ Ch. 1 Master/Slave PATA IDE を Ch. 1 Master/Slave に設定してください。
 - ▶▶ Ch. 0 Master/Slave PATA IDE を Ch. 0 Master/Slave に設定してください。(デフォルト値)
- ☞ **SATA Port 0/2 Set to**
 - ▶▶ この値は“On-Chip SATA Mode”および“PATA IDE Set to”により自動設定されます。PATA IDE が Ch. 1 Master/Slave に設定された場合、本機能は Ch. 0 Master/Slave に自動設定されます。
- ☞ **SATA Port 1/3 Set to**
 - ▶▶ この値は“On-Chip SATA Mode”および“PATA IDE Set to”により自動設定されます。PATA IDE が Ch. 0 Master/Slave に設定された場合、本機能は Ch. 1 Master/Slave に自動設定されます。
- ☞ **USB Controller**
 - ▶▶ Enabled USB コントローラを有効にします。(デフォルト値)
 - ▶▶ Disabled USB コントローラを無効にします。
- ☞ **USB 2.0 Controller**

オンボードの USB 2.0 機能を使用されない場合は、この機能を無効にできます。

 - ▶▶ Enabled USB 2.0 コントローラを有効にします。(デフォルト値)
 - ▶▶ Disabled USB 2.0 コントローラを無効にします。
- ☞ **USB Keyboard Support**
 - ▶▶ Enabled USB キーボードサポートを有効にします。
 - ▶▶ Disabled USB キーボードサポートを無効にします。(デフォルト値)
- ☞ **USB Mouse Support**
 - ▶▶ Enabled USB マウスサポートを有効にします。
 - ▶▶ Disabled USB マウスサポートを無効にします。(デフォルト値)
- ☞ **Azalia Codec**
 - ▶▶ Auto Azalia オーディオ機能を自動検知します。(デフォルト値)
 - ▶▶ Disabled Azalia オーディオ機能の無効化。
- ☞ **Front Panel Type**

HD オーディオパネルを AZALIA_FP コネクタに接続した場合は、この項目を **HD Audio** に設定します。AC97 オーディオパネルを AZALIA_FP コネクタに接続した場合はこの項目を **AC97** に設定します。

 - ▶▶ AC97 フロントオーディオパネルタイプを AC97 に設定します。
 - ▶▶ HD Audio フロントオーディオパネルタイプを HD オーディオ(デフォルト値)に設定します。

☞ **Onboard H/W RAID**

- ▶▶ Enabled オンボードハードウェア RAID 機能を有効にします。
(デフォルト値)
- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。

☞ **Onboard H/W 1394**

- ▶▶ Enabled IEEE1394 機能を有効にします。(デフォルト値)
- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。

☞ **Onboard H/W LAN**

- ▶▶ Enabled オンボードハードウェア LAN1 機能を有効にします。
(デフォルト値)
- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。

☞ **Onboard LAN Boot ROM**

この機能で、オンボード LAN1 チップのブート ROM を起動するかどうか設定します。

- ▶▶ Enabled この機能を有効にします。
- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。(デフォルト値)

☞ **Onboard Serial Port 1**

BIOS は自動的に 1 番ポートアドレスを設定します。

- ▶▶ 3F8/IRQ4 オンボードシリアルポート 1 番を有効にし、アドレスを 3F8 に設定
します。(デフォルト値)
- ▶▶ 2F8/IRQ3 オンボードシリアルポート 1 番を有効にし、アドレスを 2F8 に設定
します。
- ▶▶ 3E8/IRQ4 オンボードシリアルポート 1 番を有効にし、アドレスを 3E8 に設
定します。
- ▶▶ 2E8/IRQ3 オンボードシリアルポート 1 番を有効にし、アドレスを 2E8 に設
定します。
- ▶▶ Disabled オンボードシリアルポート 1 番を無効にします。

☞ **Onboard IrDA Port**

- ▶▶ Auto BIOS は自動的に 1 番ポートアドレスを設定します。
- ▶▶ 3F8/IRQ4 オンボード IrDA ポートを有効にし、アドレスを 3F8 に設定しま
す。
- ▶▶ 2F8/IRQ3 オンボード IrDA ポートを有効にし、アドレスを 2F8 に設定します。
(デフォルト値)
- ▶▶ 3E8/IRQ4 オンボード IrDA ポートを有効にし、アドレスを 3E8 に設定しま
す。
- ▶▶ 2E8/IRQ3 オンボード IrDA ポートを有効にし、アドレスを 2E8 に設定しま
す。
- ▶▶ Disabled オンボード IrDA ポートを無効にします。

☞ **UART Mode Select**

この項目でオンボード I/O チップの赤外線(IR)機能の設定を行います。

- ▶▶ ASKIR オンボード I/O チップ UART を ASKIR モードに設定します。
- ▶▶ IrDA オンボード I/O チップ UART を IrDA モードに設定します。
(デフォルト値)

☞ **UR2 Duplex Mode**

この項目で IR モードを選択します。

この機能は"UART モード選択"がノーマル以外のときに有効です。

- ▶▶ Half IR 機能半二重通信。(デフォルト値)
- ▶▶ Full IR 機能全二重通信。

☞ **Onboard Parallel port**

- ▶▶ Disabled オンボード LPT ポートを無効にします。
- ▶▶ 378/IRQ7 オンボード LPT ポートを有効にし、アドレスを 378/IRQ7 に設定します。(デフォルト値)
- ▶▶ 278/IRQ5 オンボード LPT ポートを有効にし、アドレスを 278/IRQ5 に設定します。
- ▶▶ 3BC/IRQ7 オンボード LPT ポートを有効にし、アドレスを 3BC/IRQ7 に設定します。

☞ **Parallel Port Mode**

- ▶▶ SPP パラレルポートを標準パラレルポートとして使用します。(デフォルト値)
- ▶▶ EPP パラレルポートを拡張パラレルポートとして使用します。
- ▶▶ ECP パラレルポートを拡張機能ポートとして使用します。
- ▶▶ ECP+EPP パラレルポートを ECP および EPP モードで使用します。

☞ **ECP Mode Use DMA**

- ▶▶ 3 ECP モード使用 DMA を 3 に設定します。(デフォルト値)
- ▶▶ 1 ECP モード使用 DMA を 1 に設定します。

2-4 Power Management Setup

CMOS Setup Utility-Copyright (C) 1984-2004 Award Software		
Power Management Setup		
ACPI Suspend Type	[S1(POS)]	Item Help
Soft-Off by PWR-BTTN	[Instant-off]	Menu Level▶
PME Event Wake Up	[Enabled]	
Power On by Ring	[Enabled]	
Resume by Alarm	[Disabled]	
x Date (of Month) Alarm	Everyday	
x Time (hh:mm:ss) Alarm	0 : 0 : 0	
Power On By Mouse	[Disabled]	
Power On By Keyboard	[Disabled]	
x KB Power ON Password	Enter	
AC Back Function	[Soft-Off]	

↑↓→←: Move	Enter: Select	+/-/PU/PD: Value	F10: Save	ESC: Exit	F1: General Help
F5: Previous Values		F6: Fail-Safe Default		F7: Optimized Defaults	

❖ ACPI Suspend Type

- ▶▶ S1 (POS) ACPI サスペンドの種類を S1/POS (Power On Suspend)に設定します。(デフォルト値)
- ▶▶ S3 (STR) ACPI サスペンドの種類を S3/STR (Suspend To RAM)に設定します。

❖ Soft-off by PWR-BTTN

- ▶▶ Instant-off 電源ボタンを押すと、すぐ電源をオフにします。(デフォルト値)
- ▶▶ Delay 4 Sec. 電源ボタンを 4 秒以上押し続けると、電源オフになります。ボタン押す時間が 4 秒間未満の場合、サスペンドモードに入ります。

❖ PME Event Wake Up

- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。
- ▶▶ Enabled PME イベントウェイクアップを有効にします。(デフォルト値)

❖ Power On by Ring

- ▶▶ Disabled Power on by Ring 機能を無効にします。
- ▶▶ Enabled Power on by Ring 機能を有効にします。(デフォルト値)

❖ Resume by Alarm

“Resume by Alarm”項目の設定で、入力した日付/時刻にシステム電源がオンになります。

- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。(デフォルト値)
- ▶▶ Enabled アラーム機能を有効にすることで、電源オンにします。

RTC アラームによる電源オンが有効の場合。

- ▶▶ Date (of Month) Alarm: 毎日、1~31
- ▶▶ Time (hh: mm: ss) Alarm: (0~23):(0~59):(0~59)

❖ Power On By Mouse

- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。(デフォルト値)
- ▶▶ Double Click PS/2 マウスの左ボタンをダブルクリックするとシステム電源がオンになります。

☞ **Power On By Keyboard**

- ▶▶ Password キーボード電源オン機能のパスワードを 1-5 文字で入力してください。
- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。(デフォルト値)
- ▶▶ Keyboard 98 "パワーキー"ボタンがキーボードにある場合は、そのキーを押すとシステム電源がオンになります。

☞ **KB Power ON Password**

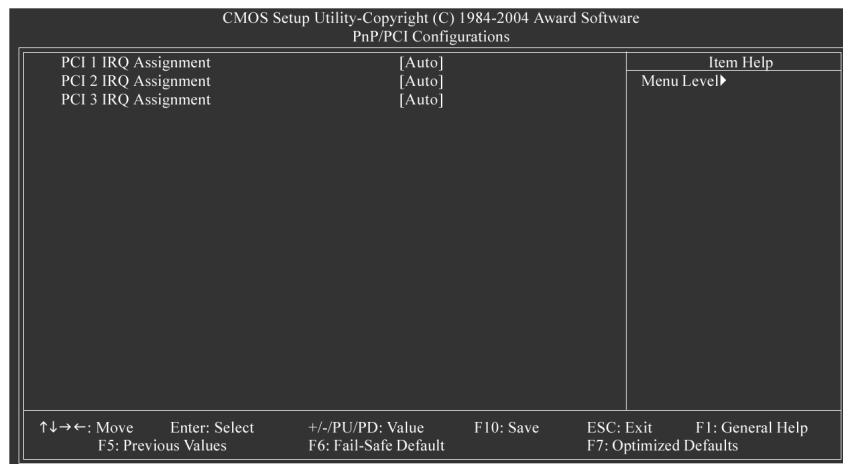
"Power On by Keyboard"項目では"Password"を設定した場合、ここでパスワードが設定できます。

- ▶▶ Enter パスワード(1~5 文字の英数字)を入力し、Enter を押してキーボード電源オンパスワードを設定してください。

☞ **AC Back Function**

- ▶▶ Soft-Off AC 電源が回復すると、システムは"Off"の状態になります。
(デフォルト値)
- ▶▶ Full-On AC 電源が回復すると、システムは"On"の状態になります。
- ▶▶ Memory AC 電源が回復すると、システムは AC 電源がオフになる前の状態に戻ります。

2-5 PnP/PCI Configurations



❖ PCI 1 IRQ Assignment

- ▶▶ Auto PCI 1 へ IRQ を自動的に割当てます。(デフォルト値)
- ▶▶ 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15 PCI 1 に IRQ 3、4、5、7、9、10、11、12、14、15 を割当てます。

❖ PCI 2 IRQ Assignment

- ▶▶ Auto PCI 2 へ IRQ を自動的に割当てます。(デフォルト値)
- ▶▶ 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15 PCI 2 に IRQ 3、4、5、7、9、10、11、12、14、15 を割当てます。

❖ PCI 3 IRQ Assignment

- ▶▶ Auto PCI 3 へ IRQ を自動的に割当てます。(デフォルト値)
- ▶▶ 3,4,5,7,9,10,11,12,14,15 PCI 3 に IRQ 3、4、5、7、9、10、11、12、14、15 を割当てます。

CMOS Setup Utility-(C) 1984-2004 Award Software					
PC Health Status					
Vcore	OK				Item Help
DDR#V	OK				Menu Level▶
+3.3V	OK				
+12V	OK				
Current CPU Temperature	33°C				
Current CPU FAN Speed	4687 RPM				
Current POWER FAN Speed	0 RPM				
Current SYSTEM FAN Speed	0 RPM				
CPU Warning Temperature	[Disabled]				
CPU FAN Fail Warning	[Disabled]				
POWER FAN Fail Warning	[Disabled]				
SYSTEM FAN Fail Warning	[Disabled]				
CPU Smart FAN Control	[Enabled]				
CPU Smart FAN Mode	[Auto]				
↑↓←→: Move Enter: Select +/-/PU/PD: Value F10: Save ESC: Exit F1: General Help F5: Previous Values F6: Fail-Safe Default F7: Optimized Defaults					

☞ CPU Smart FAN Mode

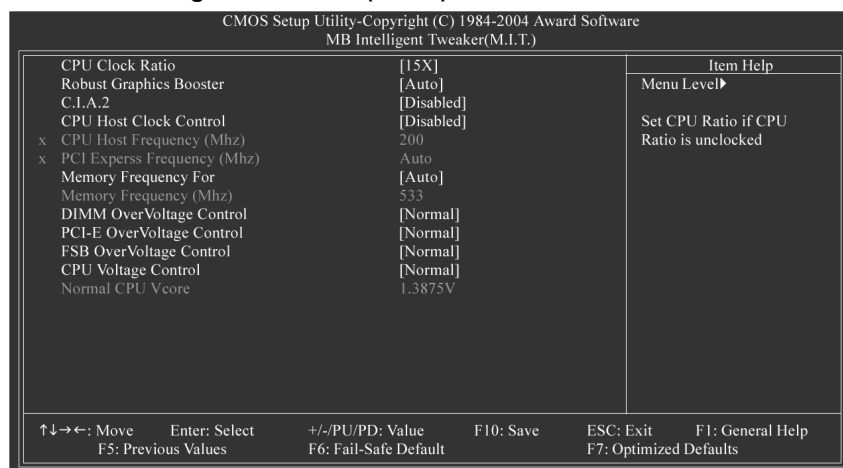
このオプションは CPU Smart FAN 制御が有効の場合にのみ使用可能です。

- ▶▶ Auto BIOS はインストールされている CPU ファンを自動検出し、最適の CPU Smart FAN 制御モードを設定します。(デフォルト値)
- ▶▶ Voltage CPU ファンが 3 ピンファン電源ケーブルを備えている場合は Voltage に設定します。
- ▶▶ PWM CPU ファンが 3 ピンファン電源ケーブルを備えている場合は PWM に設定します。

注：Voltage オプションは実際には 3 ピンと 4 ピンのいずれの電源ケーブルにも使用可能です。

4 ピン CPU ファンケーブルによっては Intel の 4 線式ファン PWM 制御仕様に対応していない場合があります。このような CPU ファンでは PWM に設定してもファン速度が効率的に減少しません。

2-7 MB Intelligent Tweaker (M.I.T.)



間違った使用はシステムの故障の原因となります。パワーユーザーのみ操作してください。

注意

☞ CPU Clock Ratio

この項目は CPU 検出により自動設定されます。

CPU レシオが変更できない場合は"固定"と表示され、リードオンリーとなります。

☞ Robust Graphics Booster

このオプションを指定すると VGA グラフィックスカードの帯域を拡張してより高い性能が得られます。

- ▶▶ Auto Robust Graphics Booster を自動に設定します。(デフォルト値)
- ▶▶ Fast Robust Graphics Booster を Fast に設定します。
- ▶▶ Turbo Robust Graphics Booster を Turbo に設定します。

☞ C.I.A.2

C.I.A.2 (CPU Intelligent Accelerator 2)は、ソフトウェアプログラムを実行中にCPU負荷を検出し、CPU コンピューティングパワーを最大システム性能へと自動調節します。

- ▶▶ Disabled この機能を無効にします。(デフォルト値)
- ▶▶ Cruise C.I.A.2 を Cruise に設定します。(CPU 負荷により、自動的に CPU 周波数(5%と、7%)を増強します。

- ▶▶ Sports C.I.A.2 を Sports に設定します。(CPU 負荷により、自動的に CPU 周波数(7%と、9%)を増強します。
- ▶▶ Racing C.I.A.2 を Racing に設定します。(CPU 負荷により、自動的に CPU 周波数(9%と、11%)を増強します。
- ▶▶ Turbo C.I.A.2 を Turbo に設定します。(CPU 負荷により、自動的に CPU 周波数(15%と、17%)を増強します。
- ▶▶ Full Thrust C.I.A.2 を Full Thrust に設定します。(CPU 負荷により、自動的に CPU 周波数(17%と、19%)を増強します。

警告：安定性はシステムコンポーネントにより異なります。

☞ CPU Host Clock Control

システムがオーバークロックされ、再起動できない場合は、20 秒ほどお待ちください。オートマティックシステムは再起動をし、または CMOS セットアップデータをクリアして、セーフリスタートを実行します。

- ▶▶ Disabled CPU ホストクロック制御を無効にします。(デフォルト値)
- ▶▶ Enabled CPU ホストクロック制御を有効にします。

☞ CPU Host Frequency (Mhz)

この項目は“CPU Host Clock Control”が Enabled になっているときに使用可能です。

- ▶▶ 100MHz ~ 600MHz CPU ホストクロックを 100MHz から 600MHz の間に設定します。FSB800 Pentium 4 プロセッサを使用する場合、“CPU Host Frequency”を 200MHz に設定してください。

間違った設定はシステムの故障の原因となります。パワーユーザーのみ操作してください！

☞ PCI Express Frequency (Mhz)

- ▶▶ Auto PCI Express クロックを自動設定(デフォルト値)
- ▶▶ 100~130 PCI Express クロックを 100MHz から 130MHz に設定。

☞ Memory Frequency For

誤った周波数を設定すると、システムが起動できなくなる場合があります。CMOS をクリアして、誤った周波数を削除してください。

FSB(フロントサイドバス)クロック：533MHz の場合、

- ▶▶ 2.5 メモリクロック=ホストクロック X2.5。
- ▶▶ 3 メモリクロック=ホストクロック X3。
- ▶▶ 4 メモリクロック=ホストクロック X4。
- ▶▶ Auto メモリクロックを DRAM SPD データによって設定します。(デフォルト値)

FSB(フロントサイドバス)クロック：800MHz の場合、

- ▶▶ 1.66 メモリクロック=ホストクロック X1.66。
- ▶▶ 2.00 メモリクロック=ホストクロック X2。
- ▶▶ 2.66 メモリクロック=ホストクロック X2.66。
- ▶▶ 3.00^(注) メモリクロック=ホストクロック X3。
- ▶▶ Auto メモリクロックを DRAM SPD データによって設定します。(デフォルト値)

☞ Memory Frequency (Mhz)

値は“Memory Frequency For”アイテムにより異なります。

☞ DIMM OverVoltage Control

DIMM 電圧の増加によるシステムのオーバークロックは、メモリの損傷を生じる恐れがあります。

- ▶▶ Normal DIMM 過電圧制御を通常設定にします。(デフォルト値)
- ▶▶ +0.1V DIMM 過電圧制御を+0.1V に設定します。
- ▶▶ +0.2V DIMM 過電圧制御を+0.2V に設定します。

(注) DDR II 600 メモリモジュールをマザーボードで使用するには、800MHz FSB のインスツールおよび Memory Frequency For を 3.00 に設定することが必要です。

▶ +0.3V DIMM 過電圧制御を+0.3V に設定します。
間違った設定はシステムの故障の原因となります。パワーユーザーのみ操作してください！

❏ PCI-E OverVoltage Control

▶ Normal PCI-E 過電圧制御を通常設定にします。(デフォルト値)
▶ +0.1V PCI-E 過電圧制御を+0.1V に設定します。
▶ +0.2V PCI-E 過電圧制御を+0.2V に設定します。
▶ +0.3V PCI-E 過電圧制御を+0.3V に設定します。

❏ FSB OverVoltage Control

▶ Normal FSB 過電圧制御を通常設定にします。(デフォルト値)
▶ +0.1V FSB 過電圧制御を+0.1V に設定します。
▶ +0.2V FSB 過電圧制御を+0.2V に設定します。
▶ +0.3V FSB 過電圧制御を+0.3V に設定します。

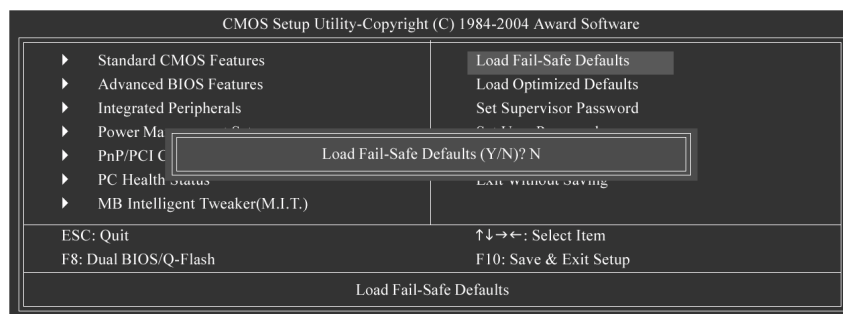
❏ CPU Voltage Control

▶ 調整可能な CPU Vcore 0.8375V から 1.6000V に対応。(デフォルト値：ノーマル)
警告：CPU の過電圧状態では、CPU が損傷または CPU 寿命が短くなることがあります。

❏ Normal CPU Vcore

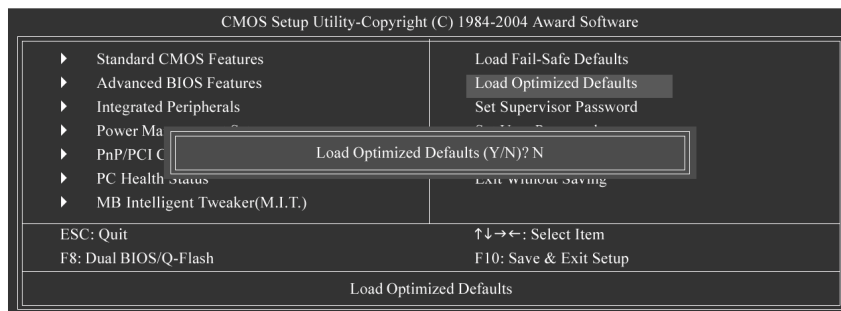
CPU Vcore 電圧を表示します。

2-8 Load Fail-Safe Defaults



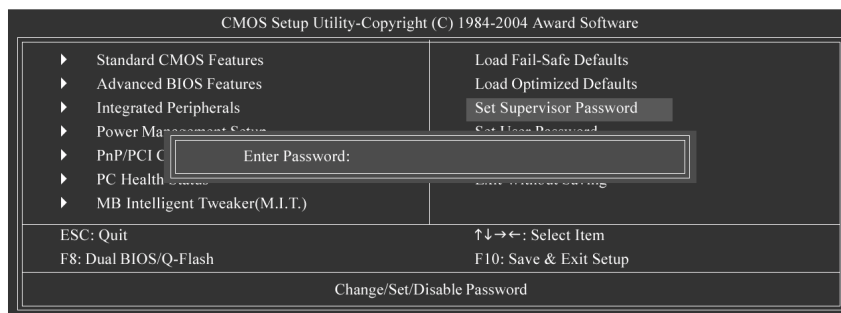
Fail-Safe defaults はシステムパラメータの最適値で構成され、システムに最低限の性能で動作します。

2-9 Load Optimized Defaults



この設定を選択すると、BIOS の出荷時デフォルト値およびシステムが自動検知するチップセット機能がロードされます。

2-10 Set Supervisor/User Password



この設定を選択すると、BIOS の出荷時デフォルト値およびシステムが自動検知するチップセット機能がロードされます。

この機能を選択すると、画面中央に以下のメッセージが表示され、パスワード作成のヒントを提供します。

最大8文字のパスワードをキー入力し、<Enter>を押します。パスワードの確認を求められます。パスワードを再度キー入力し、<Enter>を押します。<Esc>を押すと設定は中断され、パスワード入力を中止します。

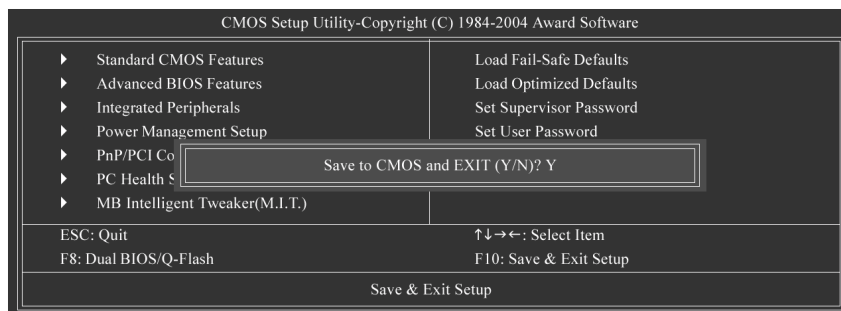
パスワードを無効にするには、パスワード入力を求められた時点で<Enter>を押します。"パスワードが無効になりました"というメッセージが表示され、パスワード無効を確認します。パスワードが無効になると、システムが起動し、いつでもセットアップが可能となります。

BIOS セットアッププログラムには異なる2つのパスワードが使用できます。SUPERVISOR PASSWORD および USER PASSWORD です。無効にすると、誰でも BIOS セットアッププログラム機能が使用できます。有効にすると、BIOS セットアッププログラムの設定欄全てを表示するには管理者パスワード、基本項目のみ表示するにはユーザーパスワードの入力が必要となります。

詳細 BIOS 機能メニュー内の"Password Check"で"System"を選ぶと、システム再起動のたびまたはセットアップに入るたびに、パスワード入力が必要となります。

詳細 BIOS 機能メニュー内の"Password Check"で"Setup"を選ぶと、セットアップに入るときのみパスワード入力が必要となります。

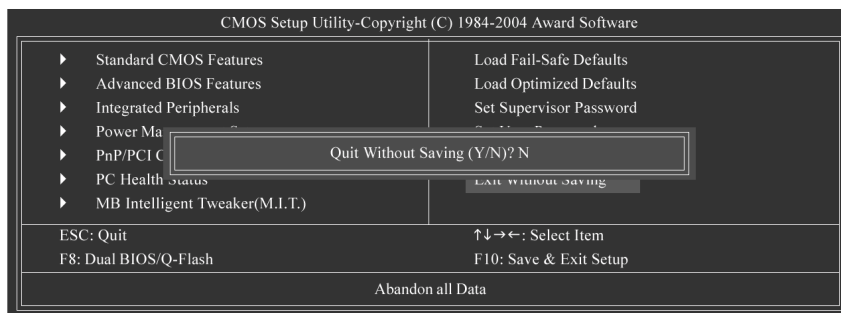
2-11 Save & Exit Setup



“Y”を入力すると、ユーザー設定値を RTC CMOS に保存し、セットアップユーティリティを終了します。

“N”を入力すると、セットアップユーティリティに戻ります。

2-12 Exit Without Saving



“Y”を入力すると、ユーザー設定値を RTC CMOS に保存せずにセットアップユーティリティを終了します。

“N”を入力すると、セットアップユーティリティに戻ります。

第3章 ドライバのインストール



注

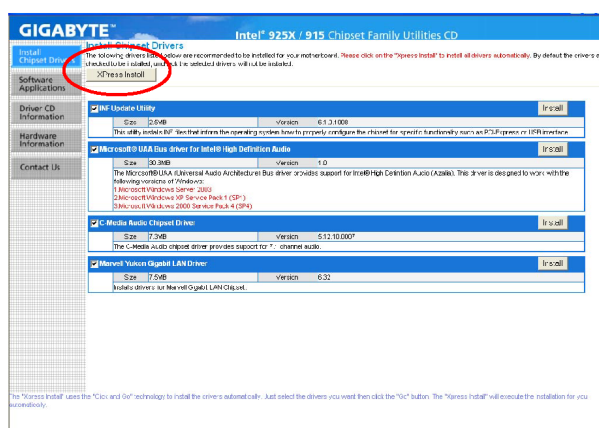
下図は、Windows XP で表示されています。

お買い上げのマザーボードに付属のドライバ CD-タイトルを CD-ROM ドライブに入れると、ドライバ CD-タイトルはオートスタートし、インストールガイドが表示されます。表示されない場合は、「マイコンピュータ」中の CD-ROM ドライブのアイコンをダブルクリックし、Run.exe を実行してください。

3-1 チップセットドライバのインストール

"Xpress Install" is now analyzing your computer...99%

ドライバ CD が挿入されると、「Xpress Install」は自動的にシステムをスキャンし、インストール可能なすべてのドライバを表示します。必要なアイテムを選択し、「install」をクリックしてください；または、すべてのデフォルトのアイテムをインストールする場合は、「Xpress Install」をクリックしてください。



注

ドライバによってはシステムを自動的に再起動するものがあります。システム再起動後、「Xpress Install」は他のドライバのインストールを続行します。

システムは、ドライバをインストール後に自動的にリブートし、その後、ユーザーは他のアプリケーションをインストールすることができます。

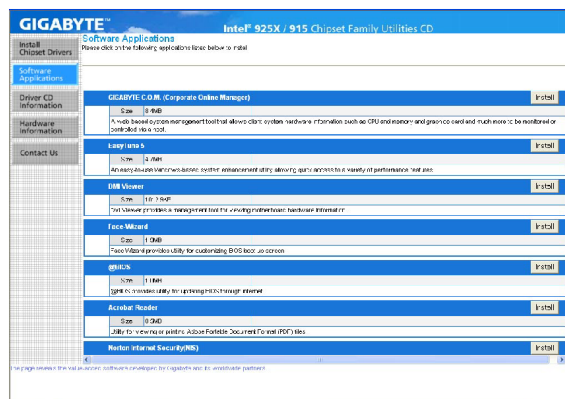


注意

Windows XP オペレーティングシステム環境での USB2.0 ドライバサポートについては、Windows Service Pack をご使用ください。Windows Service Pack インストール後、「デバイスマネージャ」内の「ユニバーサルシリアルバスコントローラ」の欄には疑問符「？」が表示されます。疑問符を取り除きシステムを再起動してください(システムは正しい USB2.0 ドライバを自動検出します)。

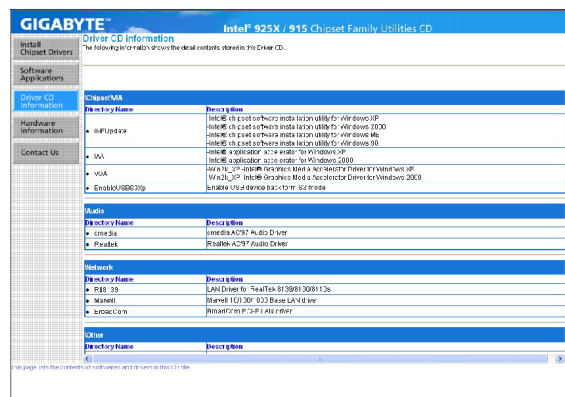
3-2 ソフトウェアのアプリケーション

このページは Gigabyte が開発したすべてのツールおよび幾つかのフリーソフトウェアを表示します。インストールする場合は"install"をクリックしてください。

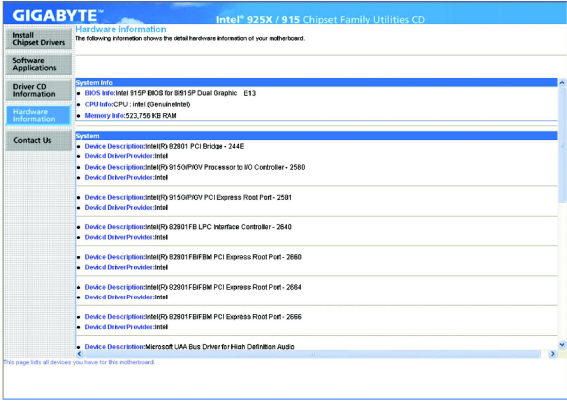


3-3 ドライバ CD 情報

このページには当 CD タイトルに収録されているソフトウェアおよびドライバの一覧が示されています。



このページには当マザーボード用のデバイス全てが示されています。



詳細は最後のページをご覧ください。



第4章 付録

4-1 ユニークソフトウェアユーティリティ

(すべてのモデルがこれらの Unique Software Utilities をサポートするわけではありません。MB 機能をチェックしてください。)



U-PLUS D.P.S. (Universal Plus Dual Power System)

U-Plus Dual Power System (U-Plus DPS)は、最大のシステム保護を目的として造られた、革命的な8フェーズの電力回路です。異なった電流レベルや変化に耐え得るように設計された U-Plus D.P.S.は、確実なシステム安定性を保証するため、非常に丈夫で安定した電源回路を CPU に提供します。これらの特性は、最新の LGA775 Intel® Pentium® 4 プロセッサおよび将来の Intel® プロセッサの相性に適しています。また、システムローディングの表示用に、U-Plus D.P.S.には4つの青色 LED が装備されています。



M.I.T. (Motherboard Intelligent Tweaker)

Motherboard Intelligent Tweaker (M.I.T.)は、相対的速度で BIOS 機能設定に容易にアクセスまたは変更できるように設計されます。GIGABYTE M.I.T.機能により、システム設定(CPU システムバス、メモリタイミング等)を変更、または Gigabyte の C.I.A.2 および M.I.B.2 機能を有効にするために、ユーザは BIOS 設定内で異なるモードに切り替える必要はなくなります。すべてのプラットフォーム性能設定を単一モードへ統合する M.I.T. 統合により、コンピュータシステムを必要なレベルに制御・強化することが可能になります。



C.I.A.2 (CPU Intelligent Accelerator 2)

C.I.A.2 (GIGABYTE CPU Intelligent Accelerator 2)は、最大システム性能を引き出すため、CPU 計算能力を自動調整するように設計されています。機能が有効にされると、プログラムは、現在の CPU ローディングを検出し、より迅速かつスムーズに処理するように CPU の計算性能を自動的に加速します。機能が無効にされると、CPU は初期ステータスに戻されます。



M.I.B.2 (Memory Intelligent Booster 2)

オリジナルの M.I.B.に構築された新型 Memory Intelligent Booster 2 (M.I.B.2)は、最大のメモリ性能を引き出し、メモリ帯域幅を最大 10%まで増大するように設計されています。メモリモジュールの追加情報により、ユーザは、メモリモジュールリストから選択し、メモリ性能を最適化することができます。



S.O.S. (System Overclock Saver)

System Overclock Saver (S.O.S.)は、ユーザーによるシステム過剰拡張から生じるシステム起動エラーを排除する特殊機能です。GIGABYTE の S.O.S.機能により、ユーザは、システムを工場デフォルト設定に戻すために、PC シャシーを開けたり、“Clear CMOS”ピンまたはマザーボードのバッテリーを短絡させる必要はなくなります。代わりに、S.O.S.機能は、よりユーザーフレンドリーで高信頼のプラットフォームを提供し、自動的に工場デフォルトにオーバークロックしているシステムの設定をリセットします。



ダウンロードセンター

ダウンロードセンターにより、ユーザは BIOS やシステムの最新ドライバを高速にダウンロード・更新することができます。ダウンロードセンターは、自動的にユーザーPC のシステムチェックを実行した後、現在のシステム情報を提供し、またダウンロードのオプションと共にすべての新しいドライバの詳細リストを表示します。



C.O.M. (Corporate Online Management)

CPU、メモリ、グラフィックスカードなどのシステムハードウェア情報がインターネットを通じて監視/制御されるウェブベースのシステム管理ツール。C.O.M.は、企業 MIS 技術者に最新のドライバおよび BIOS を提供するため、企業コンピュータを容易に維持することができます。

4-1-1 EasyTune 5 紹介

EasyTune 5 は Windows ベースのシステム性能増強および管理を行う大変便利なユーティリティです。強力かつ簡単操作のツールには以下が含まれます。1)システム性能増強のためのオーバークロック、2)CPU およびメモリの拡張用の C.I.A および M.I.B、3)CPU 冷却ファンおよびノースブリッジ C S 冷却ファン双方のファン速度を管理するスマートファン制御、4)システム状態を監視する PC ヘルス。(注)

ユーザーインターフェース外観



	ボタン/表示	説明
1.	オーバークロック	オーバークロック設定ページに移動
2.	C.I.A/C.I.A.2 および M.I.B./M.I.B.2	C.I.A./2 および M.I.B./2 設定ページに移動
3.	スマートファン	スマートファン設定ページに移動
4.	PC ヘルス	PC ヘルス設定ページに移動
5.	移動	設定および実行ボタン
6.	“イージーモード”および“アドバンスドモード”	イージーおよびアドバンスドモードの切換
7.	ディスプレイスクリーン	CPU クロックのディスプレイパネル
8.	機能表示 LED	機能の現在設定を表示
9.	GIGABYTE ロゴ	GIGABYTE ウェブサイトへ移動
10.	ヘルプボタン	EasyTune™ 5 ヘルプファイルの表示
11.	終了または最小化ボタン	EasyTune™ 5 ソフトウェアの中止または最小化

(注) EasyTune 5 機能はマザーボード毎に異なる場合があります。

4-1-2 Xpress Recovery 紹介



Xpress Recovery とは？

Xpress Recovery とは、OS パーティションのリカバリ/リストアに使用されるユーティリティです。ハードドライブが正しく動作しない場合、ユーザーはドライブを元の状態へ戻すことができます。



注意

1. FAT16、FAT32、NTFS フォーマット対応
2. IDE1 マスターに接続しなければなりません
3. 1つのみの OS にインストール可能です
4. HPA 対応の IDE ハードディスクを使用する必要があります
5. 第 1 パーティションが起動パーティションとして設定されている必要があります。起動パーティションがバックアップされた場合、そのサイズを変えないでください。
6. Ghost を使用してブートマネージャを NTFS フォーマットへ戻す場合、Xpress Recovery を使用することをお勧めします。

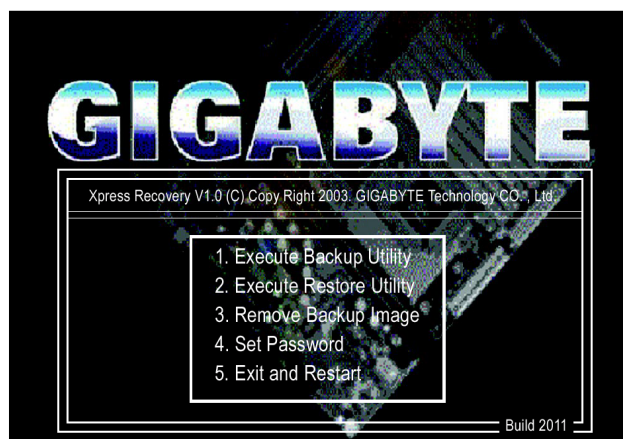
Xpress Recovery の使用方法

1. CD から起動(BMP モード)

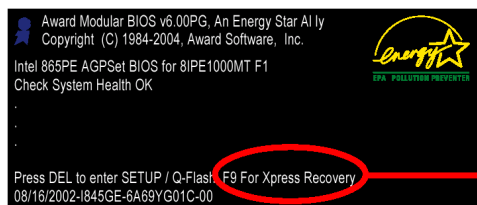
BIOS メニューに入り、“Advanced BIOS Feature”にて、CD からの起動を設定します。添付のドライバ CD を CD ドライブへ挿入し、BIOS を保存/終了します。コンピュータの再起動時に、“Boot from CD:”の文字が画面の左下に表示されます。“Boot from CD:”が表示された時点で、任意のキーを押し、Xpress Recovery へ入ります。一度この操作を行った後、次回から Xpress Recovery に入るには、コンピュータの起動時に F9 を押します。



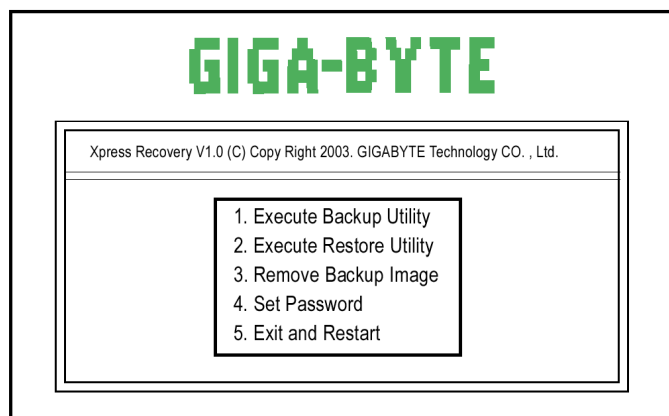
CD から起動：



2. コンピュータ起動中に F9 を押します。(テキストモード)
コンピュータ起動中に F9 を押します。



F9 で Xpress Recovery 起動



注

1. CD から起動して Xpress Recovery へ入ったことがある場合、その後は F9 により Xpress Recovery に入ることが可能です。
2. システムの保存容量およびドライブの読み書き速度が、バックアップ速度に影響します。
3. OS、必要なドライバ、ソフトウェアのインストールが完了した後、直ちに Xpress Recovery をインストールすることをお勧めします。

1. Execute Backup Utility: **B を押すとシステムをバックアップ、Esc で終了します**

Backup Utility はシステムを自動スキャンし、ハードドライブのバックアップイメージとしてデータをバックアップします。



システムによっては、コンピュータ起動時に、F9 によって Xpress Recovery に入れない場合があります。この場合は、CD から起動して Xpress Recovery に入ってください。

2. Execute Restore Utility: **このプログラムはご使用のシステムを工場デフォルト設定に戻します。**

R を押してシステムを工場デフォルト設定に戻してください。または Esc を押して終了します。

バックアップイメージを元の状態へ戻します。

3. Remove Backup Image: **バックアップイメージの削除。よろしいですか？(Y/N)**

バックアップイメージを削除します。

4. Set Password: **4-16 文字長のパスワード(a-z または 0-9)を入力してください。または Esc を押して終了します。**

ハードディスクデータを保護するため、Xpress Recovery に入る時のパスワードを設定できます。設定後、次回からシステム起動時に Xpress Recovery へ入るには、パスワードの入力が必要になります。パスワードを削除したい場合、“Set Password”を選択して、“New Password/Confirm Password”に何も入力せずに“Enter”を押してください。パスワード要求は無効になります。

5. Exit and Restart:

終了してコンピュータを再起動します。

4-1-3 BIOS のフラッシュ方法の説明



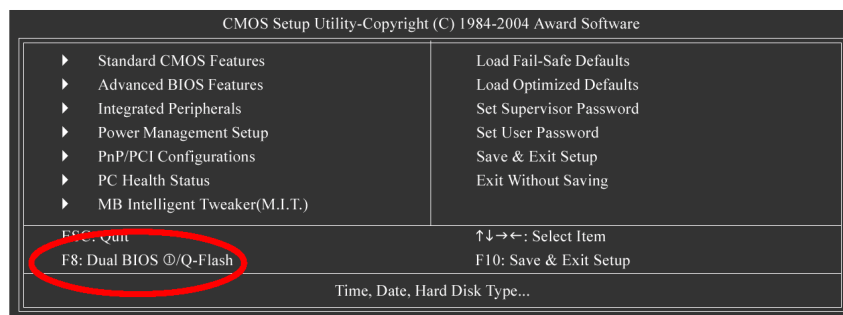
A. Dual BIOS 技術って何？

Dual BIOS は、マザーボード上に 2 つのシステム BIOS (ROM) を持つことを意味します。片方はメイン BIOS で、もう片方はバックアップ BIOS です。

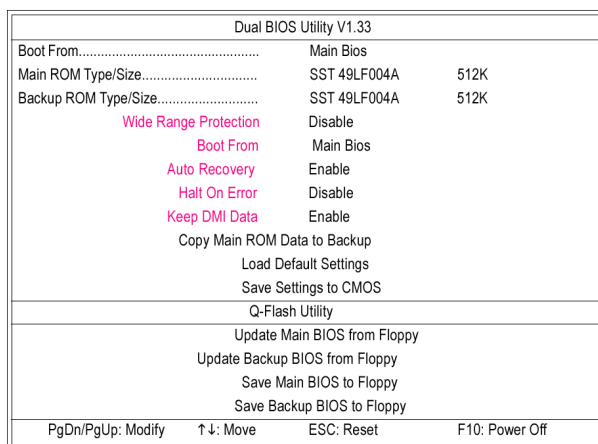
通常の状態では、システムはメイン BIOS 上で稼動します。メイン BIOS が破損またはダメージを受けた場合、システム電源投入時にバックアップ BIOS が自動的に切り替わり動作します。このため、BIOS になにも発生しなかったかのように、PC は安定して動作します。

B. Dual BIOS と Q-Flash ユーティリティの使い方は？

- コンピュータの電源をオンにし、パワーオンセルフテスト(POST)が開始されたら直ちにキーを押し、AWARD BIOS SETUP に入ってください。そして、<F8>を押して FLASH ユーティリティを起動します。



- デュアル BIOS/Q-Flash プログラミングユーティリティ



c. Dual BIOS アイテムの説明 :

Wide Range Protection: Disable (Default), Enable

状態 1 :

メイン BIOS に故障が発生した場合(ESCD の更新失敗、チェックサムエラーやリセットなど)、電源が入り、オペレーションシステムが読み込まれる直前に、Wide Range Protection が"Enable"に設定されていると、PC がバックアップ BIOS から起動します。

状態 2 :

ユーザーがシステムに変更を加えた後、周辺機器カード(SCSI カードや LAN カードなど)の ROM BIOS がシステム再起動の要求を発した場合、起動 BIOS はバックアップ BIOS へ変更されます。

Boot Form : Main BIOS (Default), Backup BIOS

状態 1 :

起動する BIOS をメイン BIOS/バックアップ BIOS から選択することができます。

状態 2 :

どちらかの BIOS が利用できないとき、本アイテム"Boot From: Main BIOS (Default)"は淡色表示になり変更できません。

Auto Recovery : Enable (Default), Disable

2 つの BIOS のどちらかにチェックサムエラーが生じたとき、エラーでない BIOS が自動的にエラーの生じた BIOS を回復します。

(BIOS 設定 : Power Management Setup(電源管理セットアップ)で ACPI Suspend Type (ACPI サスペンドの種類)が Suspend to RAM(サスペンドから RAM)のとき、本項目は自動的に Enable(有効)になります。)

(BIOS 設定に入りたい場合は、起動画面が表示されたら"Del"キーを押してください。)

Halt On Error : Disable (Default), Enable

BIOS にチェックサムエラーが生じたとき、またはメイン BIOS にワイドレンジ保護エラー(WIDE RANGE PROTECTION error)が生じたとき、Halt On Error が Enable に設定されている場合に、PC はシステム起動時にメッセージが表示され、ユーザーの指示を待つ状態で一時停止します。

Auto Recovery の場合 : Disabled、<or the other key to continue>と表示されます。

Auto Recovery の場合 : Enable、<or the other key to Auto Recover>と表示されます。

Keep DMI Data : Enable (Default), Disable

有効 : DMI データは新しい BIOS の書き込みで置き換えられません。(推奨)

無効 : DMI データは新しい BIOS の書き込みで置き換えられます。

Copy Main ROM Data to Backup

(ハングアップ ROM から起動のとき、バックアップ ROM データからメインへのコピーに変更されます)

オートリカバリーメッセージ :

BIOS Recovery: Main to Backup

メイン BIOS が正常に作動し、自動的にバックアップ BIOS を復元します。

BIOS Recovery: Backup to Main

バックアップ BIOS が正常に作動し、自動的にメイン BIOS を復元します。

(このオートリカバリーユーティリティはシステムにより自動設定され、ユーザーによる変更はできません。)

Load Default Settings

dual BIOS の既定値を読み込みます。

Save Setting to CMOS

修正した設定を保存します。



方法 1 : Q-Flash™ ユーティリティ

Q-Flash™はフラッシュ ROM に組み込まれた BIOS フラッシュユーティリティです。当ユーティリティにより、ユーザーが BIOS を更新する際は、ただ BIOS メニューから操作できます。Q-Flash™により BIOS のフラッシュ操作が DOS や Windows 上のユーティリティなしで行えます。Q-Flash™は BIOS メニュー内にありますから、オペレーティングシステムやその他複雑な操作手順などが不要になります。



注意 BIOS の更新はある程度リスクを伴うので注意深く行ってください！ユーザー皆様の BIOS 更新の誤操作に伴うシステムの障害に関しては Gigabyte Technology Co., Ltd は責任を負いかねますこと、ご容赦ください。

操作の準備：

Q-Flash™により BIOS 更新を始める前に、以下の手順に従ってください。

1. Gigabyte のウェブサイトから、ご使用のマザーボード用の最新の BIOS をダウンロードします。
2. ダウンロードされた BIOS を展開し、フロッピーディスクに BIOS ファイル(モデル名.Fxx という形式、例：8KNXPU.Fba)を保存します。
3. ご使用の PC を再起動し、**Del** を押して BIOS メニューに入ります。

以下の BIOS 更新の手順は 2 つのパートに分かれています。

お持ちのマザーボードがデュアル BIOS 装備の場合は、**パート I** をご参照ください。

お持ちのマザーボードが単一の BIOS 装備の場合は、**パート II** をご参照ください。

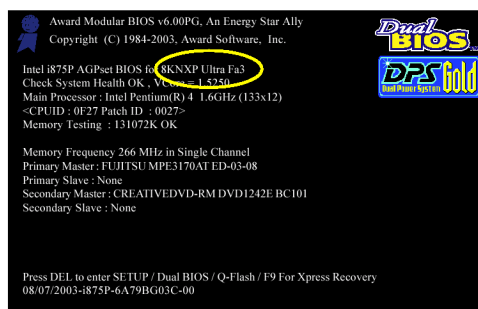
パート I：

デュアル BIOS マザーボードでの Q-Flash™を利用して、BIOS を更新。

Gigabyte 製マザーボードにはデュアル BIOS を装備しているものがあります。Q-Flash およびデュアル BIOS をサポートするマザーボードでの BIOS の場合、Q-Flash ユーティリティおよびデュアル BIOS ユーティリティは同一画面に表示されます。当セクションでは Q-Flash ユーティリティの操作方法のみを説明します。

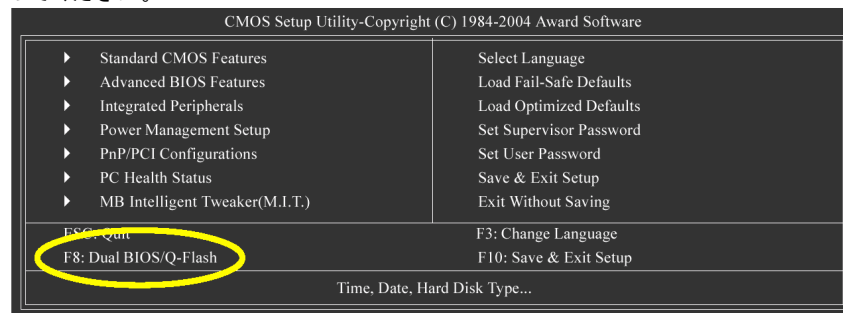
以下のセクションでは GA-8KNXP Ultra を参考例として、BIOS フラッシュ動作で古いバージョンから新しいバージョンへの更新方法をご案内します。例えば Fa3 から Fba への更新というようにです。

更新前の BIOS ファイルは Fa3



Q-Flash™ユーティリティに入る：

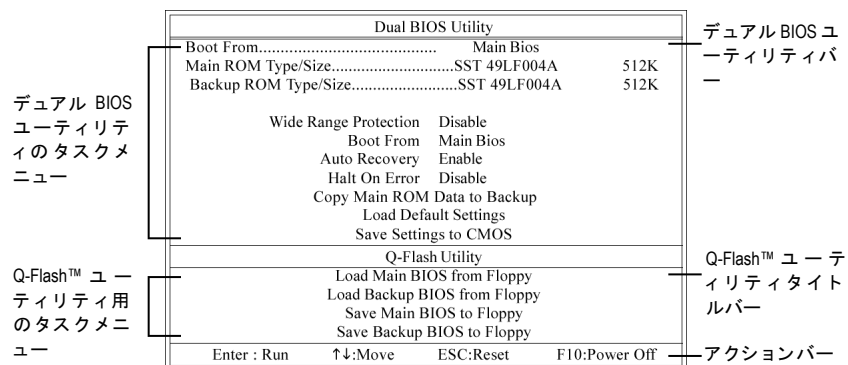
ステップ 1：Q-Flash ユーティリティの使用には、起動画面で **Del** を押し BIOS メニューに入ってください。



ステップ 2：キーボード上の **F8** ボタンを押し、次に **Y** キーを押しデュアル BIOS/Q-Flash ユーティリティに入ってください。

Q-Flash™/デュアル BIOS ユーティリティ画面の説明

Q-Flash/デュアル BIOS ユーティリティ画面は以下の主要コンポーネントから構成されています。



デュアル BIOS ユーティリティのタスクメニュー：

ここには 8 種のタスクおよび 2 項目で、BIOS の ROM タイプの情報を表示します。タスクをポイントして **Enter** キーを押すと、そのタスクが実行されます。

Q-Flash ユーティリティ用のタスクメニュー：

4 種のタスクが含まれます。タスクをポイントして **Enter** キーを押すと、そのタスクが実行されます。

アクションバー：

Q-Flash/デュアル BIOS ユーティリティの操作に必要な 4 種の操作名が含まれます。記述されているキーをキーボードから押すことで操作が実行されます。

Q-Flash™ユーティリティの使用：

このセクションでは Q-Flash ユーティリティを利用して BIOS を更新する方法が説明されています。全述の“操作の準備”セクションで説明されているように、ご使用のマザーボード用の BIOS ファイルを保存したフロッピーを用意し、これをコンピュータに入れる必要があります。フロッピーディスクをコンピュータに入れ、Q-Flash ユーティリティに入ったら、以下の手順で BIOS のフラッシュを実行します。

ステップ：

1. キーボードの矢印キーで、Q-Flash メニュー内の“Load Main BIOS from Floppy”をハイライト表示させ、そして Enter ボタンを押します。
次に、フロッピーディスクにダウンロードされた BIOS ファイルがポップアップボックスに表示されます。

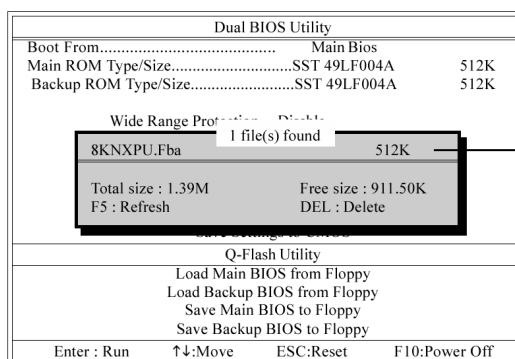


現在の BIOS をバックアップ目的で保存するには、“Save Main BIOS to Floppy”の項目を選択して、ステップ 1 から始めます。

2. フラッシュ対象の BIOS ファイルを指定し Enter を押します。
この例では、フロッピーディスクにダウンロードしたファイルはただ 1 つなので、8KNXPU.Fba のみが表示されています。

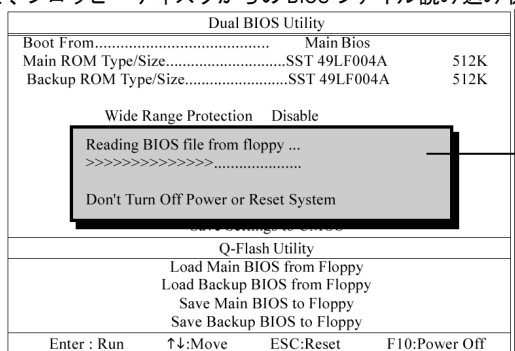


ご使用のマザーボードに合った BIOS ファイルであることを再度確認してください。



フロッピーディスク内の BIOS ファイル。

Enter を押すと、フロッピーディスクからの BIOS ファイル読み込み状況が表示されます。



注意

この段階でコンピュータの電源をオフにしたり、リセットしたりしないでください！！

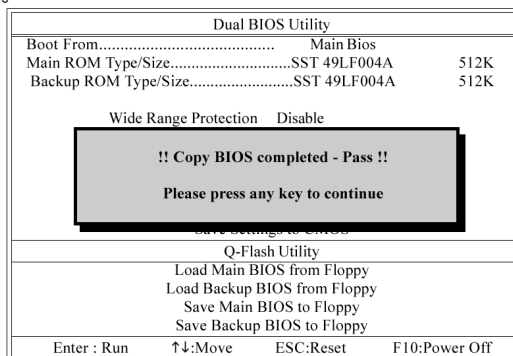
BIOS ファイル読み込みが完了すると、“Are you sure to update BIOS?”というダイアログボックスが確認を促します。

3. BIOS 更新を行うには Y キーを押します。
これで BIOS 更新が始まります。BIOS 更新状況が表示されます。



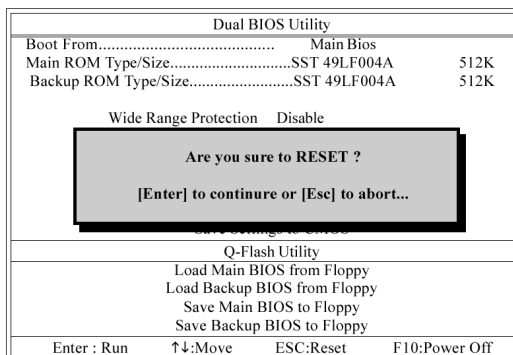
注意 BIOS フラッシュ中にフロッピーディスクを取り出さないでください。

4. BIOS 更新操作が完了したら、キーボード上の任意のキーを押すと、Q-Flash メニューに戻ります。



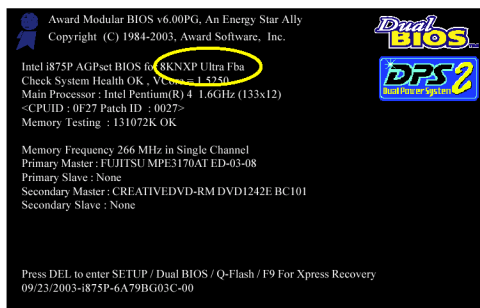
バックアップ
BIOS のフラッシュにはステップ 1-4 を繰り返します。

5. Q-Flash ユーティリティを終了するには ESC、次に Y キーを押します。Q-Flash 終了後、コンピュータは自動的に再起動します。

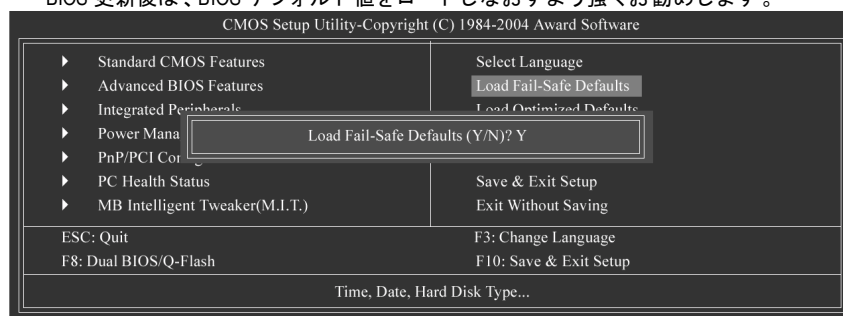


システム再起動後、起動画面上でフラッシュ後の BIOS バージョンが表示されます。

更新後 BIOS ファイルは Fab となっています。

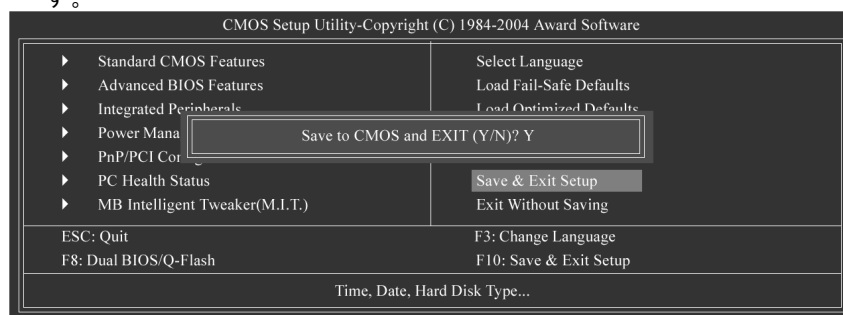


6. システム再起動後、**Del**を押して、BIOS メニューに入ります。BIOS メニューから **Load Fail-Safe Defaults** の項目を選び、**Enter** を押すと BIOS 安全デフォルト値がロードされます。通常、システムは BIOS 更新後に、既存のデバイスを皆再検出します。それで BIOS 更新後は、BIOS デフォルト値をロードしなおすよう強くお勧めします。



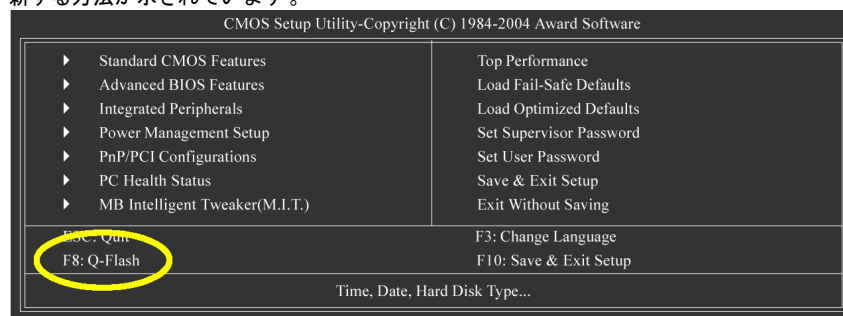
キーボードから **Y** キーを押して、デフォルト値をロードします。

7. **Save & Exit Setup** の項目を選んで、設定を CMOS に保存し BIOS メニューを終了します。BIOS メニューを終了すると、システムは再起動します。これで全部の手順は完成です。



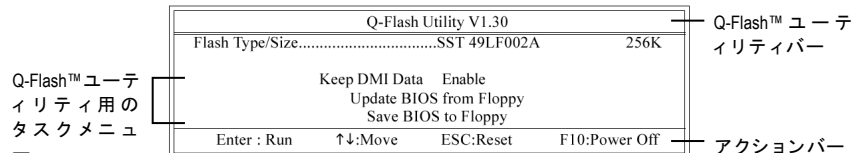
キーボードから **Y** キーを押して、保存して終了してください。

パート II :
単一の BIOS のマザーボード上での Q-Flash™ユーティリティを利用して、BIOS を更新。
 この部分では単一の BIOS のマザーボードで Q-Flash™ユーティリティを利用して BIOS を更新する方法が示されています。



Q-Flash™ユーティリティに入る

Q-Flash BIOS ユーティリティ画面は以下の主要コンポーネントから構成されています。



Q-Flash ユーティリティ用のタスクメニュー：

3 種のタスクが含まれます。タスクをポイントして Enter キーを押すと、そのタスクが実行されます。

アクションバー：

Q-Flash ユーティリティの操作に必要な 4 種の操作名が含まれます。記述されているキーをキーボードから押すことで操作が実行されます。

Q-Flash™ユーティリティの使用：

このセクションでは Q-Flash ユーティリティを利用して BIOS を更新する方法が説明されています。全述の“操作の準備”セクションで説明されているように、ご使用のマザーボード用の BIOS ファイルを保存したフロッピーを用意し、これをコンピュータに入れる必要があります。フロッピーディスクをコンピュータに入れ、Q-Flash ユーティリティに入ったなら、以下の手順で BIOS のフラッシュを実行します。

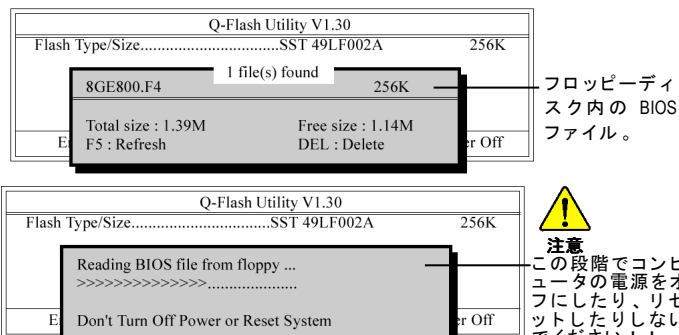
ステップ：

1. キーボードの矢印キーで、Q-Flash メニュー内の“Update BIOS from Floppy”をハイライト表示させ、そして Enter ボタンを押します。
次に、フロッピーディスクにダウンロードされた BIOS ファイルがポップアップボックスに表示されます。
 現在の BIOS をバックアップ目的で保存するには、“Save BIOS to Floppy”の項目を選択して、ステップ 1 から始めます。

2. フラッシュ対象の BIOS ファイルを指定し Enter を押します。

この例では、フロッピーディスクにダウンロードしたファイルはただ 1 つなので、8GE800.F4 のみが表示されています。

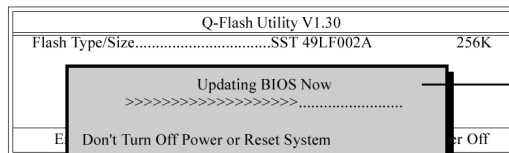
 **注意** ご使用のマザーボードに合った BIOS ファイルであることを再度確認してください。



BIOS ファイル読み込みが完了すると、“Are you sure to update BIOS?”というダイアログボックスが確認を促します。

 **注意** BIOS フラッシュ中にフロッピーディスクを取り出さないでください。

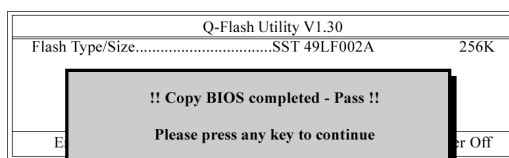
3. BIOS 更新を行うには Y キーを押します。
これで BIOS 更新が始まります。BIOS 更新状況が即時表示されます。



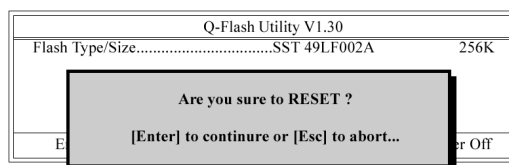
注意

この段階でコンピュータの電源をオフにしたり、リセットしたりしないでください！！

4. BIOS 更新操作が完了したら、キーボード上の任意のキーを押すと、Q-Flash メニューに戻ります。

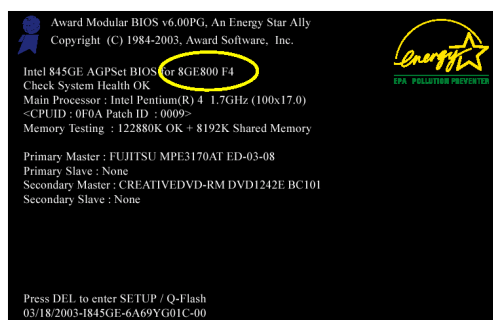


5. Q-Flash ユーティリティを終了するには ESC、次に Y キーを押します。Q-Flash 終了後、コンピュータは自動的に再起動します。



システム再起動後、起動画面上でフラッシュ後の BIOS バージョンが表示されます。

更新後 BIOS ファイルは F4 となっています



6. システム再起動後、Del を押して BIOS メニューに入り、BIOS Fail-Safe Defaults (BIOS 安全デフォルト値) をロードしてください。BIOS Fail-Safe Defaults のロード方法はパート I のステップ 6-7 をご参照ください。

これで完了です！！これで BIOS 更新に成功しました！！



方法 2 : @BIOS™ ユーティリティ

DOS スタートアップディスクをお持ちでない場合は、新しい@BIOS ユーティリティを使用することをお勧めします。@BIOS は、Windows 下での BIOS 更新を可能にします。必要な@BIOS サーバーを選択し、BIOS の最新版をダウンロードしてください。

図 1 @BIOS ユーティリティをインストールする



図 2 インストール完了、@BIOS を実行する

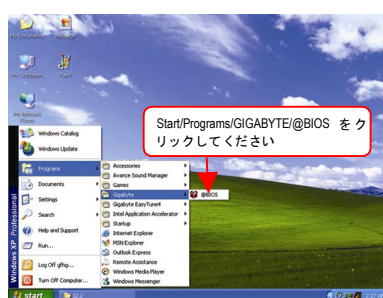


図 3 @BIOS ユーティリティ

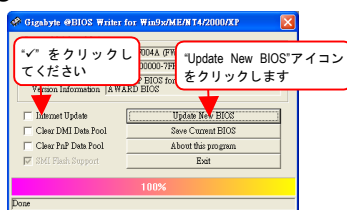
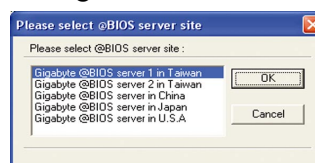


図 4 必要な@BIOS サーバーを選択する



1. 方法と手順：

I. インターネット経由で BIOS を更新

- “Internet Update”アイコンをクリックします
- “Update New BIOS”アイコンをクリックします
- @BIOS™ サーバを選択します
- ご使用のマザーボードの正確なモデル名を選択します
- システムは BIOS のダウンロードと更新を自動的に行います。

II. インターネットを経由しないで BIOS を更新：

- “Internet Update”アイコンはクリックしないでください
- “Update New BIOS”アイコンをクリックします
- ファイルを開ける際には、ダイアログボックスから“All Files”を選びます。
- インターネットやその他の方法からダウンロードした BIOS の非圧縮ファイル (例：8I915P Dual Graphic.F1) を見出してください。
- 続く指示に従って更新操作を完了させます。

III. BIOS の保存

最初の段階でダイアログボックスに“Save Current BIOS”アイコンが表示されます。これは現在使用中のバージョンの BIOS を保存することを意味します。

IV. サポートされているマザーボードおよびフラッシュ ROM の確認：

最初の段階でダイアログボックスに“About this program”アイコンが表示されます。これはサポートされるマザーボードとフラッシュ ROM メーカーの確認に役立ちます。

2. 注：

- I. 方法 I で、選択すべきマザーボードのモデル名が 2 つ以上表示される場合には、ご使用のマザーボードのモデル名を再確認してください。間違ったモデル名を選択すると、システムが起動不能となります。
- II. 方法 II では、BIOS 非圧縮ファイルのマザーボードのモデル名が実際にご使用のマザーボードと一致していることをご確認ください。一致しないと、システムは起動しません。
- III. 方法 I で、必要な BIOS ファイルが@BIOS™サーバ内に見つからない場合は、Gigabyte ウェブサイトからダウンロードし、方法 II で更新してください。
- IV. 更新途中に中断すると、システム起動が不能になる点にご注意ください

4-1-4 シリアル ATA BIOS 設定ユーティリティ紹介

RAID レベル

RAID (Redundant Array of Independent Disks)は2台のハードディスクを1つの論理ユニットとして結合する方法です。このアレイの利点はよりよいパフォーマンスまたはデータエラー耐性です。エラー耐性はデータの冗長的操作、つまりドライブの1台が故障してもミラーコピーされたデータが別のドライブに確保されているという形で実現されます。これでオペレーティングシステムの起動不能やハングアップなどでのデータ損失を防げます。アレイの個々のディスクはメンバーと呼ばれます。各メンバーの設定情報は予備セクターに記録され、各メンバーを認識します。ディスクアレイを構成するメンバー全体が、オペレーティングシステムからは1つの論理ドライブとして認識されます。ハードディスクドライブは数種の異なる方法で組み合わせられます。これら異なる方法は異なるRAIDレベルとして言及されます。個々のRAIDレベルにより、パフォーマンスレベル、導入コストが異なります。Intel® ICH6R チップセットのサポートするRAIDレベルはRAID 0 および RAID 1 です。

RAID 0 (ストライピング)

RAID 0 では複数のドライブの間にインターリーブされたデータのセクタを読み書きします。ディスクメンバーのいずれかが故障すると、アレイ全体に影響します。ディスクアレイ容量は最小メンバー容量をドライブ数と掛けた量となります。ストライピングのブロックサイズは4KB から64KB まで設定できます。RAID 0 ではエラー耐性はサポートされません。

RAID 1 (ミラーリング)

RAID 1 では複製されたデータが並列して2台のドライブに同時に読み書きされます。ミラー側のドライブが機械的に故障または応答しない場合でも、残りのドライブが機能しつづけます。アレイ容量は冗長性により、最小のドライブ容量となります。RAID 1 の設定ではスペアドライブと呼ばれる予備のドライブが接続されます。このドライブがミラー対象アレイの部分として、故障ドライブの代わりに動作します。いずれのRAID 1 ドライブが故障しても、データ耐性があるので、アレイの他方のドライブがある限りデータアクセスには支障がありません。

完全な RAID アレイを構築するため、以下ステップに従ってください：

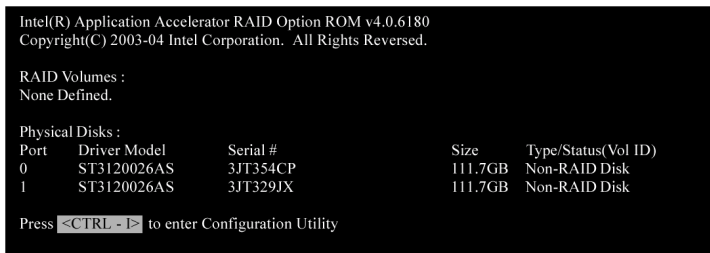
- 1) RAID 構築用のハードドライブを準備します。
注：最良のパフォーマンスを得るため、ハードドライブは同様のタイプおよび容量のものを使用することをお勧めします。
 - 2) ハードドライブのコネクタを、IDE、SCSI、SATA 等、マザーボードの上の適切な場所に接続します。
 - 3) マザーボードの BIOS に入り、RAID 設定を指定します(Integrated Peripherals のセクションを参照してください)。
 - 4) BIOS の RAID 設定に入り、RAID タイプを選択します(例、Ctrl+I を押して、Intel RAID を選択；Ctrl+S を押して、Silicon Image を選択)。
 - 5) ドライバのインストールを実行してください。
 - 6) RAID ユーティリティのインストールを実行してください。
- ステップ4および5の詳細情報が提供されます。

Intel RAID BIOS の設定

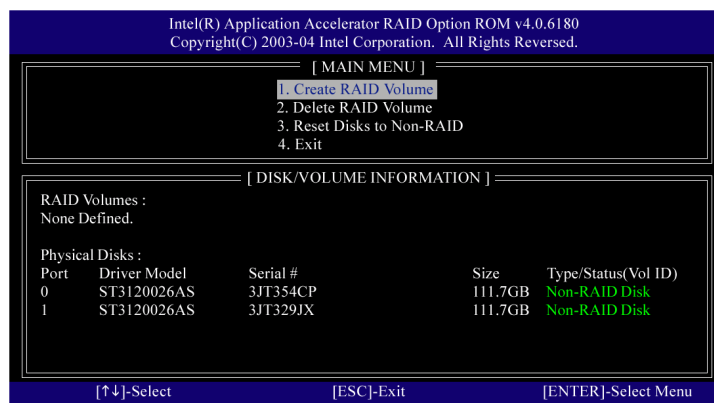
Intel RAID BIOS setupは、RAIDアレイの種類やアレイの一部として使用されるハードドライブを指定します。

RAID BIOS セットアップの起動

1. コンピュータの起動後、RAID ソフトウェアが Ctrl+I を押すようにプロンプトを表示するのを待ちます。RAID プロンプトは、システム POSTの一部として表現され、OS ロード以前の起動プロセスです。ウィンドウが消える前に、Ctrl+I を押す時間が何秒間あります。

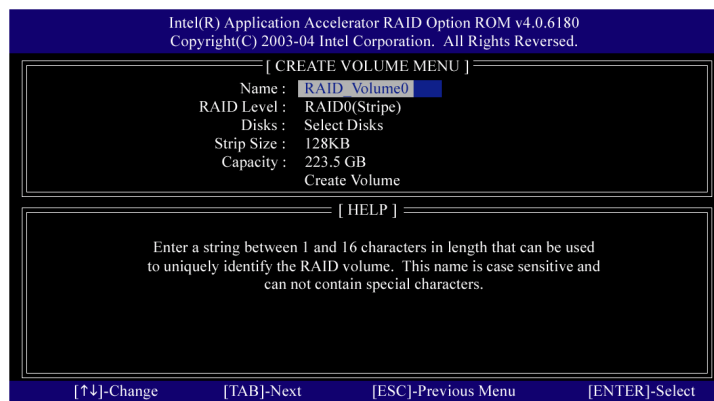


Ctrl+I を押します。Intel RAID ユーティリティ - RAID ボリュームの作成 ウィンドウが表示されます (下図参照)。



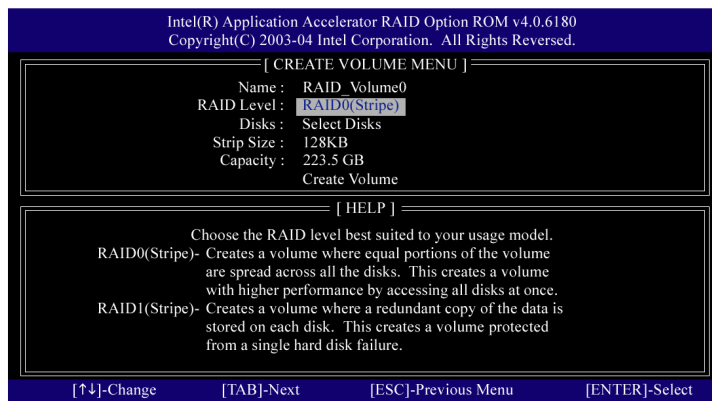
RAID ボリュームの作成

Create RAID Volume から Enter を押して RAID の設定を行います。



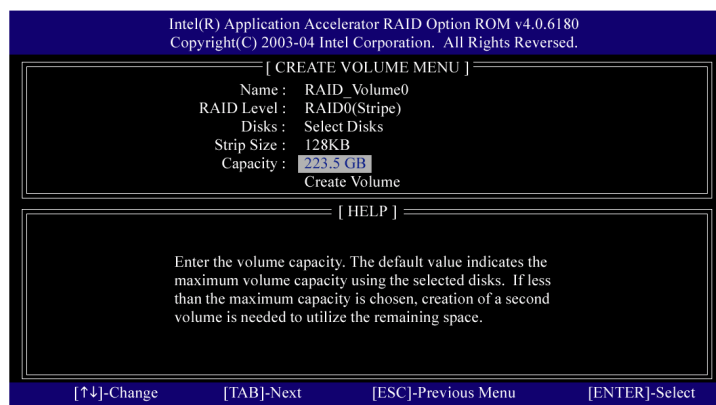
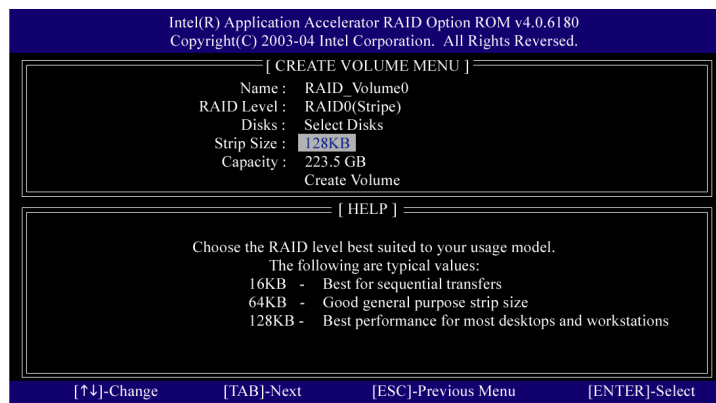
ボリューム作成メニュー表示後 **Name** 項目からディスク名を 16 文字以内(特殊文字は除く)で設定できます。

ディスク名称設定後、**Enter** を押して **RAID Level** 設定に移ります。



RAID レベルには 2 つあります。RAID0 (ストライピング)および RAID1(ミラーリング)です。RAID レベル選択後、**Enter** を押して **Strip Size** を選択します。

ストライプサイズ単位は KB です。ここでブロックサイズが指定できます。
ブロックサイズは 4KB から 128KB までで設定可能です。設定後、Enter を押してディスク
Capacity を設定します。



ディスク容量設定後、Enter を押して **Create Volume** に移ります。

Create Volume の項目で Enter を押します。

Intel(R) Application Accelerator RAID Option ROM v4.0.6180
Copyright(C) 2003-04 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[CREATE VOLUME MENU]

Name : RAID_Volume0
RAID Level : RAID0(Stripe)
Disks : Select Disks
Strip Size : 128KB
Capacity : 223.5 GB
Create Volume

[HELP]

Press "ENTER" to Create the specified volume

[↑↓]-Change [TAB]-Next [ESC]-Previous Menu [ENTER]-Select

選択されたディスク内のデータが全部失われるとの警告バーが表示されます。Yを押すと RAID の設定は完了です。

Intel(R) Application Accelerator RAID Option ROM v4.0.6180
Copyright(C) 2003-04 Intel Corporation. All Rights Reserved.

[CREATE VOLUME MENU]

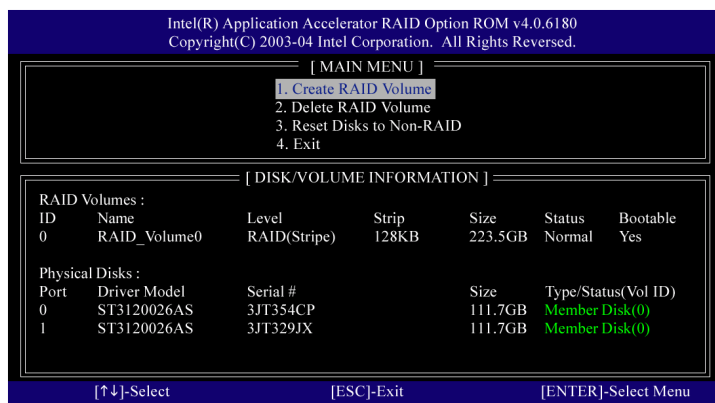
Name : RAID_Volume0
RAID Level : RAID0(Stripe)
Disks : Select Disks
Strip Size : 128KB
Capacity : 223.5 GB

WARNING : ALL DATA ON SELECTED DISKS WILL BE LOST.
Are you sure you want to creat this volume? (Y/N) :

Press "ENTER" to Create the specified volume

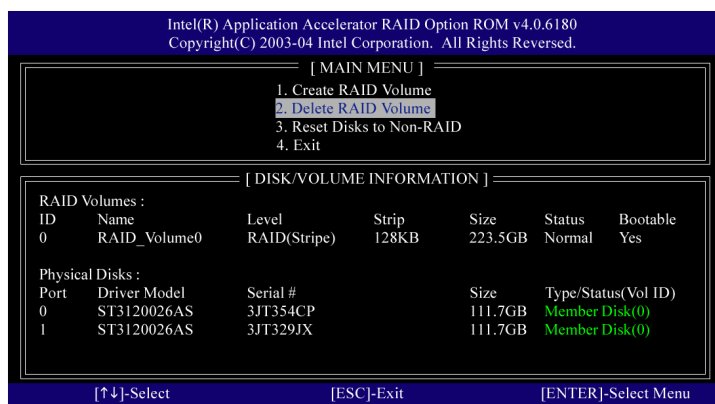
[↑↓]-Change [TAB]-Next [ESC]-Previous Menu [ENTER]-Select

完了後、RAID レベル、ディスクブロックサイズ、ディスク名称、ディスク容量など、RAID の詳細情報が表示されます。



RAID ボリュームの削除

RAID ボリュームを削除したい場合は、Delete RAID Volume を選びます。Enter を押してから画面上の指示に従ってください。



RAID ドライバのインストール

Windows 2000/XP を Serial ATA ハードディスク上に正しくインストールするには、OS インストール中に SATA コントローラの必要とするドライバをインストールする必要があります。ドライバなしでは、Windows セットアップ過程でハードディスクが検出されない可能性があります。

まず、マザーボードドライバ CD からフロッピーディスクに SATA コントローラ用ドライバをコピーする必要があります。ドライバのコピー方法は以下をご参照ください。

ステップ 1：使用可能なオペレーティングシステム上で、マザーボードドライバ CD を CD-ROM ドライブに入れます。ドライバ CD を入れてまもなくするとインストールユーティリティが自動的に起動されます。このインストールユーティリティを終了させます。フォーマットされたブランクフロッピーをフロッピードライブに入れてください。

ステップ 2：マイコンピュータを開き、CD-ROM アイコン(今回はドライブ D と仮定)を右クリックし、開くを選びます。これでドライバ CD 内のフォルダおよびファイルが表示されます。BootDrv フォルダアイコンをダブルクリックし、MENU.exe (図 1 参照)を選びます。

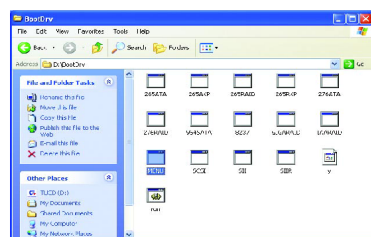


図1

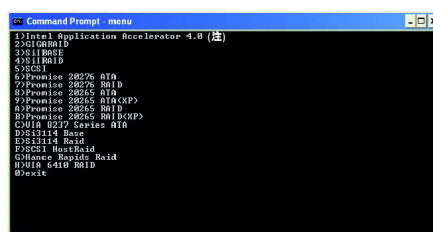


図2

ステップ 3：

MS-DOS プロンプト画面が表示されます。画面上にチップセット情報が皆表示される(図 2 参照)ので、適切なチップセットを選択します。

システムは自動的に解凍を行い、ドライバの中のファイルをフロッピーディスクへ転送します。

ステップを完了した後、Windows CD から起動して、RAID ドライバをインストールします。

シリアル ATA コントローラの HDD から Windows 2000/Windows XP をインストールする場合、Windows 2000/Windows XP の起動時に F6 を押し、このフロッピーディスクのシリアル ATA コントローラドライバを使用します。オンスクリーンの指示に従って、インストールを完成させてください。

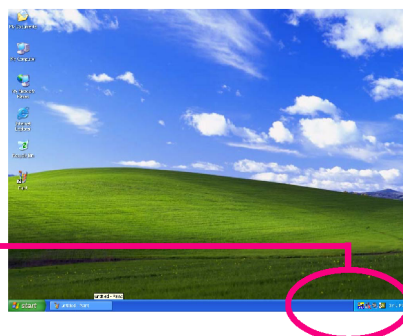
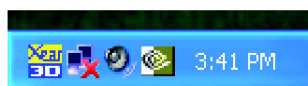
(新しいハードドライブを RAID アレイに加えるたびに、そのハードドライブを使用するために、RAID ドライバを Windows 上にインストールしなければなりません。その後、ドライバは不要となります。)

注：メニューリスト内の Intel Application Accelerator 4.0 が Intel ICH6R チップセットです。

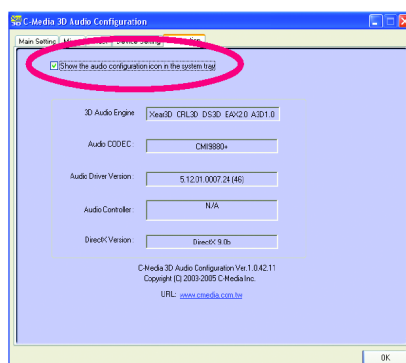


4-1-5 2/4/5.1/7.1チャンネルオーディオ機能紹介

オーディオドライバをインストール後、システムエリアに アイコンが表示されます。アイコンをダブルクリックし、機能を選択してください。



アイコンが見つからない場合は、システムメニューからコントロールパネルに入り、C-Media CPL アイコンをダブルクリックしてください。“CMI Audio Config”を開き、“Information”タブへ進んでください。“Show the audio configuration icon in the system tray”にチェックマークを付けてください。



5 種類の出力モードがあります：イヤホン出力モード、2/4/5.1/7.1 チャンネル出力モード。

- | | |
|-------------------|--|
| イヤホン出力モード -- | システムはイヤホン出力のみに設定されます。 |
| 2 チャンネル出力モード -- | システムはフロントスピーカーに設定されます。 |
| 4 チャンネル出力モード -- | システムはフロントスピーカーとサラウンドスピーカーに設定されます。 |
| 5.1 チャンネル出力モード -- | システムはフロントスピーカー、サラウンドスピーカー、およびセンター/サブウーファースピーカーに設定されます。 |
| 7.1 チャンネル出力モード -- | システムはフロントスピーカー、サラウンドスピーカー、およびセンター/サブウーファースピーカーに設定されます。 |

出力モードは、シーケンスにより決定されます(優先度の高い順に位置付けされます)：バックサラウンドスピーカー、センター/サブウーファースピーカー、サラウンドスピーカー、フロントスピーカー、およびイヤホン。(例えば、バックサラウンドスピーカーが設定された場合、他の出力装置が設定されても、システムは、7.1 チャンネル出力モードになります。)

2 チャンネルオーディオのセットアップ :

ステレオ出力を利用する場合、最良のサウンド効果を得るにはアンプ付きスピーカーの使用をお勧めします。

ステップ 1 :

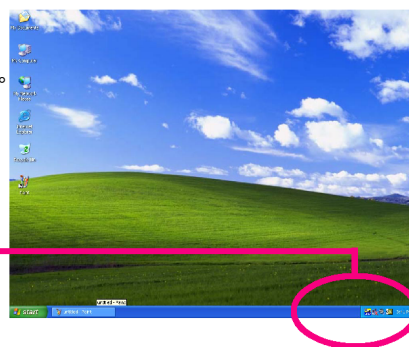
ステレオスピーカーまたはヘッドホンを“ライン出力”に接続します。



ライン出力

ステップ 2 :

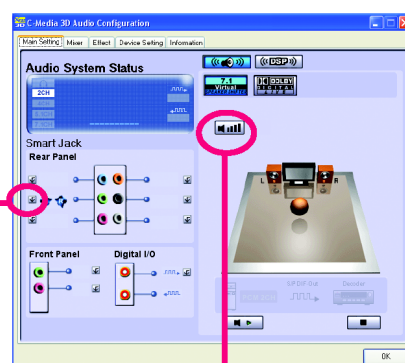
オーディオドライバをインストール後、システムエリアに  アイコンが表示されます。アイコンをダブルクリックし、機能を選択してください。



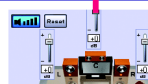
ステップ 3 :

“C-Media 3D Audio Configuration”をクリックし、“Main Setting”を選択してください。“Audio System Status”に現在のオーディオモードが表示されます。“Smart Jack”がスピーカータイプを自動検出するため、ユーザーは手動によりスピーカー設定を変更することができます。

手動でスピーカー設定を変更する。



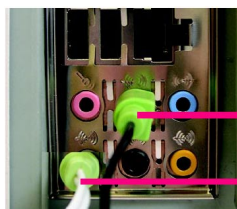
スピーカー音量を調整する。



4 チャンネルオーディオのセットアップ

ステップ 1:

フロントスピーカーを“フロントスピーカー出力”に接続し、サラウンドスピーカーを“サラウンドスピーカー出力”に接続してください。

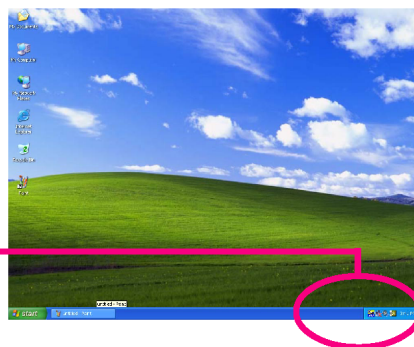


フロントスピーカー出力

サラウンドスピーカー出力

ステップ 2:

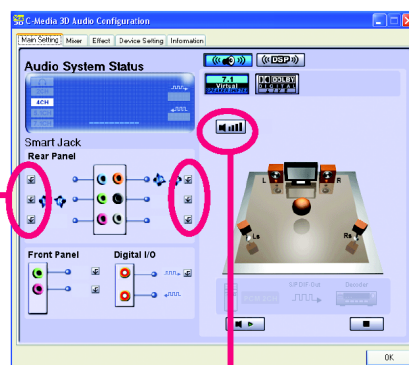
オーディオドライバをインストール後、システムエリアに  アイコンが表示されます。アイコンをダブルクリックし、機能を選択してください。



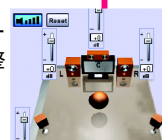
ステップ 3:

“C-Media 3D Audio Configuration”をクリックした後、“Main Setting”を選択してください。現在のオーディオモードが“Audio System Status”に表示されます。“Smart Jack”が接続されたスピーカータイプを自動検出し、ユーザーに手でスピーカー設定を変更することができます。

手動でスピーカー設定を変更する。



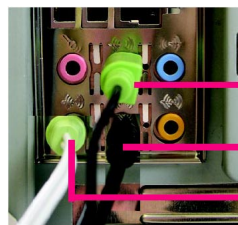
スピーカー音量を調整する。



5.1 チャンネルオーディオのセットアップ

ステップ 1 :

フロントスピーカーを“フロントスピーカー出力”、サラウンドスピーカーを“サラウンドスピーカー出力”、およびセンター/サブウーファースピーカーを“センター/サブウーファースピーカー出力”に接続してください。



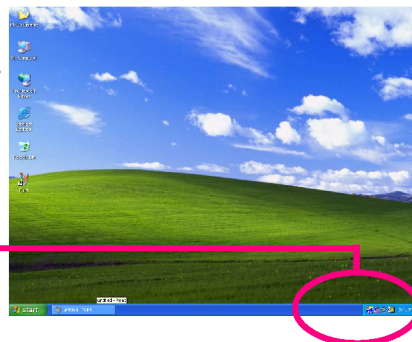
フロントスピーカー出力

センター/サブウーファースピーカー出力

サラウンドスピーカー出力

ステップ 2 :

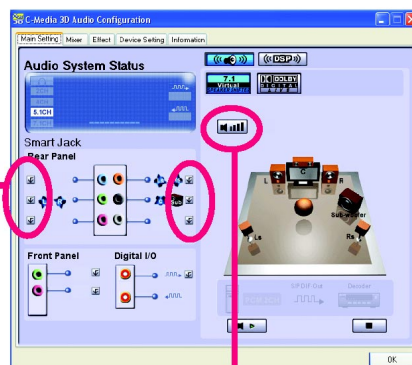
オーディオドライバをインストール後、システムエリアに  アイコンが表示されます。アイコンをダブルクリックし、機能を選択してください。



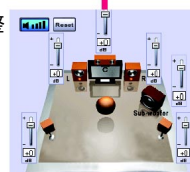
ステップ 3 :

“C-Media 3D Audio Configuration”をクリックした後、“Main Setting”を選択してください。現在のオーディオモードが“Audio System Status”に表示されます。“Smart Jack”が接続されたスピーカータイプを自動検出し、ユーザーに手動でスピーカー設定を変更することができます。

手動でスピーカー設定を変更する。



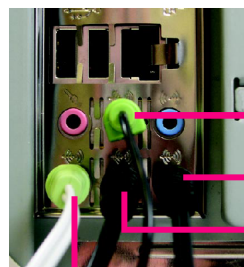
スピーカー音量を調整する。



7.1 チャンネルオーディオのセットアップ

ステップ 1:

フロントスピーカーを“フロントスピーカー出力”、サラウンドスピーカーを“サラウンドスピーカー出力”、センター/サブウーファースピーカーを“センター/サブウーファースピーカー出力”、およびバックスピーカーを“バックスピーカー出力”に接続してください。



フロントスピーカー出力

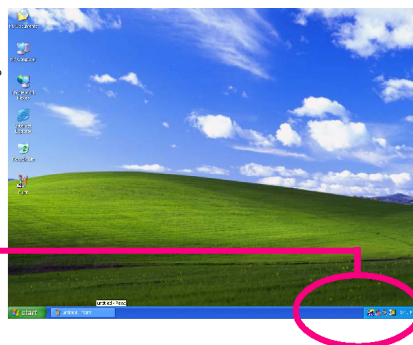
バックサラウンドスピーカー出力

センター/サブウーファースピーカー出力

サラウンドスピーカー出力

ステップ 2:

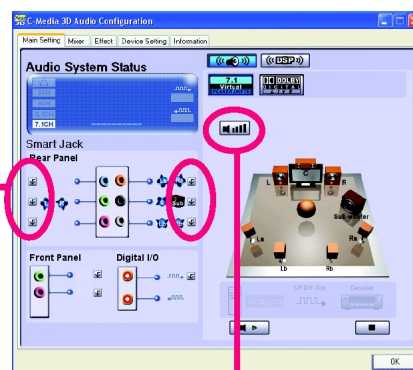
オーディオドライバをインストール後、システムエリアに  アイコンが表示されます。アイコンをダブルクリックし、機能を選択してください。



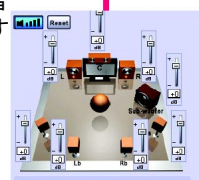
ステップ 3:

“C-Media 3D Audio Configuration”をクリックした後、“Main Setting”を選択してください。現在のオーディオモードが“Audio System Status”に表示されます。“Smart Jack”が接続されたスピーカータイプを自動検出し、ユーザーに手動でスピーカー設定を変更することができます。

手動でスピーカー設定を変更する。



スピーカー音量を調整する。



デジタル I/O ステータス :

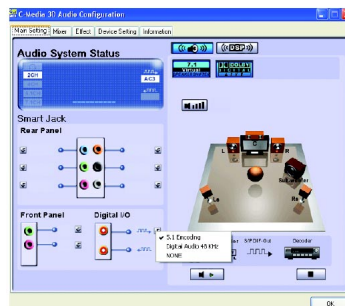
デジタル出力ステータス--

(1) ステレオ PCM 出力用 : サンプルング速度はここに表示されます。

(2) ドルビーデジタルライブ！出力 : AC3 はここに表示されます。

デジタル入力ステータス--

(1) ステレオ PCM 入力用 : サンプルング速度はここに表示されます。



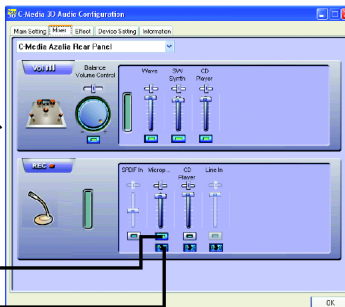
ミキサー

内蔵ミキサーにより、ユーザーは音量調節および録音サウンドのモニターが可能です。

例えば、マイクロホンを録音デバイスとした場合、即時にマイクロホンからサウンド入力を聞きたい場合は、右図のように **Monitoring** と録音ソースの項目を有効にしてください。

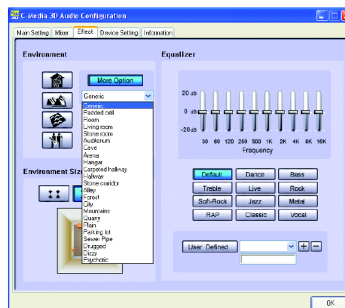
録音ソース

モニター



エフェクト

ユーザーは、ここでエンバイロメントエミュレーション、エンバイロメントサイズ、およびイコライザのパラメータを制御することができます。



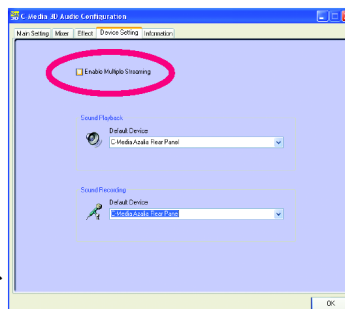
デバイスの設定

“Enable Multiple Streaming”をチェックした後、システムを再起動し、複数の音声出力機能のサポートを可能にしてください。

デフォルト :

“Sound Playback”および“Sound Recording”のデフォルトは、“C-Media Azalia Rear Panel”です。“Enable Multiple Streaming”アイテムをチェックしてシステムを再起動した後、複数の音声出力機能を使用するため、別の“C-Media Azalia Front Panel”オプションが表示されます。

注 : 音声機器をフロントパネルに接続しない限り、この機能を利用することができません。



4-2 トラブルシューティング

下記は一般に尋ねられる質問を集めています。特定のモデルのマザーボードに関する一般的な質問については、<http://tw.giga-byte.com/faq/faq.htm> にアクセスしてください。

問1: BIOS 更新後、以前の BIOS で表示されていたオプションのいくつかが表示されません。なぜですか？

答: 詳細オプションのいくつかは新たな BIOS バージョンでは非表示となっています。BIOS メニュー表示後、Ctrl と F1 キーを同時に押すと、これらのオプションが表示されます。

問2: コンピュータをオフにしてもキーボードや光学マウスのランプが消えないのはなぜですか？

答: ボードによっては、コンピュータをシャットダウンしてもスタンバイ用の微小電流が存在しますので、ランプがついた状態になります。

問3: CMOS のクリア方法は？

答: ご使用のボードに CMOS クリア用ジャンパーがある場合は、マニュアル中の CMOS のクリア方法をご参照ください。お持ちのボードにそのようなジャンパーがない場合は、オンボードの電池を外してボード電圧を放電させることで CMOS がクリアできます。以下のステップをご参照ください:

ステップ:

1. 電源をオフにします。
2. マザーボードから電源コードを外します。
3. 電池を静かに外し、10 分ほど放置します(または電池ホルダーのプラス・マイナスピンを金属片で1分間ほどショートさせます)。
4. 電池を電池ホルダーに戻します。
5. マザーボードに電源コードをつなぎ、電源をオンにします。
6. Del を押して、BIOS に入り、Fail-Safe Defaults をロードします。
7. 設定を保存し、システムを再起動します。

問4: BIOS 更新後、システムが不安定になっているようですが、なぜですか？

答: BIOS フラッシュ後は Fail-Safe Defaults (または BIOS Defaults)をロードするようにしてください。それでもシステムが安定しない場合は、CMOS をクリアして問題解決します。

問5: スピーカー音量を最大にしても小さな音しか出ないのはなぜですか？

答: ご使用のスピーカーがアンプ内蔵かどうかご確認ください。アンプ内蔵でない場合、電源/アンプ付きスピーカーに取り替えてお試しください。

問6: 別の VGA カードを装備するので、オンボード VGA カードを無効にしたいのですが、どのようにしますか？

答: Gigabyte 製マザーボードは装着された外付け VGA カードを自動検出するので、オンボード VGA カードをマニュアルでオフにする必要はありません。

問7: IDE 2 が使用できないのはなぜですか？

答: ユーザーマニュアルを参照し、フロント USB パネル上の USB 過電流ピンに、マザーボードパッケージ付属以外のケーブルを接続していないかご確認ください。もしケーブルがマザーボード付属品以外のものなら、それを外し、このピンには付属品以外のケーブルを接続しないようにしてください。

問8: システム起動後、コンピュータから断続的にビープ音が聞こえることがあります。このビープ音にはどんな意味がありますか？

答: 下記のビープ音コードはコンピュータに生じている問題を判別するのに役立つでしょう。ただし、これらは参照用のみです。状況は実際のケースにより異なります。

→AMI BIOSビープコード

* システム起動に成功した場合はコンピュータは短くピッと鳴ります。

* ビープコード 8 以外は、通常起動不能となります。

ビープ音 1 回リフレッシュエラー

ビープ音 2 回パリティエラー

ビープ音 3 回ベース 64K メモリエラー

ビープ音 4 回タイマーエラー

ビープ音 5 回プロセッサエラー

ビープ音 6 回 8042-ゲート A20 エラー

ビープ音 7 回プロセッサ割り込み除外エラー

ビープ音 8 回ディスプレイメモリアード/ライトエラー

ビープ音 9 回 ROM チェックサムエラー

ビープ音 10 回 CMOS シャットダウンレジスタリード/ライトエラー

ビープ音 11 回キャッシュメモリエラー

→AWARD BIOS ビープコード

短く 1 回: システム起動成功

短く 2 回: CMOS 設定エラー

長く 1 回短く 1 回: DRAM またはマザーボードエラー

長く 1 回短く 2 回: モニタまたはディスプレイカードエラー

長く 1 回短く 3 回: キーボードエラー

長く 1 回短く 9 回: BIOS ROM エラー

連続した長いビープ音: DRAM エラー

連続した短いビープ音: 電源エラー



当社への御連絡

• Taiwan (Headquarters)

GIGA-BYTE TECHNOLOGY CO., LTD.
Address: No.6, Bau Chiang Road, Hsin-Tien, Taipei Hsien, Taiwan
TEL: +886 (2) 8912-4888
FAX: +886 (2) 8912-4003
Tech. Support :
<http://tw.giga-byte.com/TechSupport/ServiceCenter.htm>
Non-Tech. Support(Sales/Marketing) :
<http://ggts.gigabyte.com.tw/nontech.asp>
WEB address (English): <http://www.gigabyte.com.tw>
WEB address (Chinese): <http://chinese.giga-byte.com>

• U.S.A.

G.B.T. INC.
Address: 17358 Railroad St, City of Industry, CA 91748.
TEL: +1 (626) 854-9338
FAX: +1 (626) 854-9339
Tech. Support :
<http://www.giga-byte.com/TechSupport/ServiceCenter.htm>
Non-Tech. Support(Sales/Marketing) :
<http://ggts.gigabyte.com.tw/nontech.asp>
WEB address : <http://www.giga-byte.com>

• Germany

G.B.T. TECHNOLOGY TRADING GMBH
Address: Friedrich-Ebert-Damm 112 22047 Hamburg
TEL: +49-40-2533040 (Sales)
+49-1803-428468 (Tech.)
FAX: +49-40-25492343 (Sales)
+49-1803-428329 (Tech.)
Tech. Support :
<http://de.giga-byte.com/TechSupport/ServiceCenter.htm>
Non-Tech. Support(Sales/Marketing) :
<http://ggts.gigabyte.com.tw/nontech.asp>
WEB address : <http://www.gigabyte.de>

• Japan

NIPPON GIGA-BYTE CORPORATION
WEB address : <http://www.gigabyte.co.jp>

• Singapore

GIGA-BYTE SINGAPORE PTE. LTD.
Tech. Support :
<http://tw.giga-byte.com/TechSupport/ServiceCenter.htm>
Non-Tech. Support(Sales/Marketing) :
<http://ggts.gigabyte.com.tw/nontech.asp>

• U.K.

G.B.T. TECH. CO., LTD.
Address: GUnit 13 Avant Business Centre 3 Third Avenue, Denbigh West Bletchley Milton Keynes, MK1 1DR, UK, England
TEL: +44-1908-362700
FAX: +44-1908-362709
Tech. Support :
<http://uk.giga-byte.com/TechSupport/ServiceCenter.htm>
Non-Tech. Support(Sales/Marketing) :
<http://ggts.gigabyte.com.tw/nontech.asp>
WEB address : <http://uk.giga-byte.com>

• The Netherlands

GIGA-BYTE TECHNOLOGY B.V.
TEL: +31 40 290 2088
NL Tech.Support: 0900-GIGABYTE (0900-44422983)
BE Tech.Support: 0900-84034
FAX: +31 40 290 2089
Tech. Support :
<http://nz.giga-byte.com/TechSupport/ServiceCenter.htm>
Non-Tech. Support(Sales/Marketing) :
<http://ggts.gigabyte.com.tw/nontech.asp>
WEB address : <http://www.giga-byte.nl>

• **China**

NINGBO G.B.T. TECH. TRADING CO., LTD.
 Tech. Support :
<http://cn.giga-byte.com/TechSupport/ServiceCenter.htm>
 Non-Tech. Support(Sales/Marketing) :
<http://ggts.gigabyte.com.tw/nontech.asp>
 WEB address : <http://www.gigabyte.com.cn>

Shanghai

TEL: +86-021-63410999
 FAX: +86-021-63410100

Beijing

TEL: +86-010-82886651
 FAX: +86-010-82888013

Wuhan

TEL: +86-027-87851061
 FAX: +86-027-87851330

GuangZhou

TEL: +86-020-87586074
 FAX: +86-020-85517843

Chengdu

TEL: +86-028-85236930
 FAX: +86-028-85256822

Xian

TEL: +86-029-85531943
 FAX: +86-029-85539821

Shenyang

TEL: +86-024-23960918
 FAX: +86-024-23960918-809

• **Australia**

GIGABYTE TECHNOLOGY PTY. LTD.
 Tech. Support :
<http://www.giga-byte.com.au/TechSupport/ServiceCenter.htm>
 Non-Tech. Support(Sales/Marketing) :
<http://ggts.gigabyte.com.tw/nontech.asp>
 WEB address : <http://www.giga-byte.com.au>

• **France**

GIGABYTE TECHNOLOGY FRANCES S.A.R.L.
 Tech. Support :
<http://tw.giga-byte.com/TechSupport/ServiceCenter.htm>
 Non-Tech. Support(Sales/Marketing) :
<http://ggts.gigabyte.com.tw/nontech.asp>
 WEB address : <http://www.gigabyte.fr>

• **Russia**

Moscow Representative Office Of Giga-Byte Technology Co., Ltd.
 Tech. Support :
<http://tw.giga-byte.com/TechSupport/ServiceCenter.htm>
 Non-Tech. Support(Sales/Marketing) :
<http://ggts.gigabyte.com.tw/nontech.asp>
 WEB address : <http://www.gigabyte.ru>

• **Poland**

Representative Office Of Giga-Byte Technology Co., Ltd.
 POLAND
 Tech. Support :
<http://tw.giga-byte.com/TechSupport/ServiceCenter.htm>
 Non-Tech. Support(Sales/Marketing) :
<http://ggts.gigabyte.com.tw/nontech.asp>
 WEB address : <http://www.gigabyte.pl>
